

ふるさと納税活用事例集



ふるさと納税や
企業版ふるさと納税を
活用した自治体の取組

 総務省



はじめに

ふるさと納税制度は、平成 20 年度税制改正により創設され、これまで、ふるさとや地方団体を応援する納税者の気持ちを橋渡しし、支え合う仕組みとして、多くの皆様に活用されてきました。また、近年多発する災害時における被災地への支援としても活用されています。

人口減少が深刻化する我が国において、地域資源を最大限活用し、地域経済を再生させていく上で、ふるさと納税は、地方団体が様々な施策を実現するための手段として重要な役割を果たす制度です。

今後、ふるさと納税を行う方の裾野を拡大し、ふるさと納税で得られた資金がそれぞれの地域でさらに有効に活用されるためには、各地方団体の取組において、次の 2 つの視点が重要であると考えています。

まず、ふるさと納税の使い途を地域の実情に応じて工夫し、ふるさと納税を活用する事業の趣旨や内容、成果をできる限り明確にすることです。すでに、クラウドファンディング型のふるさと納税として、事業の趣旨や内容をわかりやすく示してふるさと納税を募集し、納税者の共感を呼ぶ事例が生まれています。

次に、ふるさと納税を行った方と継続的なつながりを持つことです。地方団体の中には、ふるさと納税を行った方に、まちづくりへの意見募集や行事の案内を行うほか、ふるさと納税を行った方を招いて交流会を開催するなどの取組が実施されています。ふるさと納税を契機とした関わりを大切にすることで、交流人口の増加、ひいては将来の移住定住にもつながることが期待されます。

今般、こうした 2 つの視点を踏まえたふるさと納税の取組を全国に広げていくため、各地の好事例をとりまとめ、「ふるさと納税活用事例集」を作成いたしました。

また、各地方団体においては、地方創生の実現に向けた取組が積極的に進められていますが、その推進にあたっては民間企業の力が必要不可欠です。企業版ふるさと納税は、民間資金を寄附という形で呼び込み、地域の活性化につなげるため平成 28 年度に創設されました。その取組を広げていくため、企業版ふるさと納税の活用事例をあわせて掲載しています。

本事例集が各地方団体における創意工夫に溢れた取組を検討する際の一助となれば幸いです。

最後に、本事例集の作成にあたり、多大なご協力をいただきました関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。

本事例集については、総務省ふるさと納税ポータルサイトにおいて掲載しています。
http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/080430_2_kojin.html

ふるさとと納税活用事例集

ふるさとと納税

ふるさと納税の概要

6

教育・子育て

- 地域の課題を学んで地域の未来を探し求める 北海道 夕張市 8
- ふるさと納税で魅力ある農業学校づくり 北海道 遠別町 9
- 子育て支援の充実による人口増 北海道 上士幌町 10
- 国際交流事業の充実とふるさとの雪下ろし 秋田県 湯沢市 11
- 新たな命におめでとうの気持ちを込めて 山形県 長井市 12
- 学生たちの希望をふるさと納税で叶えたい 福井県 13
- 地域資源を最大限活用した白馬高校魅力化プロジェクト 長野県 白馬村 14
- こどもたちに本を贈ろうプロジェクト 京都府 長岡京市 15
- 制度の原点に立ち返った取組で子どもや被災者を支援 鳥取県 16
- 公営塾の開設で「教育の町」和気町を復活させたい 岡山県 和気町 17
- 移動図書館車の復活をふるさと納税で叶える 徳島県 石井町 18
- 離島のハンデを乗り越えるためICTで教育充実 長崎県 五島市 19
- 未来を担う国際性のある若者を育成 沖縄県 宜野湾市 20

まちづくり・スポーツ

- ふるさと納税で離れていてもまちづくりに参加 北海道 二セコ町 21
- 文化やスポーツを盛り上げてまちを活性化させたい 群馬県 高崎市 22
- 使い途に共感してもらうための具体的な12の基金 神奈川県 横須賀市 23
- ハンドボーラー憧れの地として選手権大会を存続 富山県 氷見市 24
- 市民の市民による市民のためのふるさと納税 福井県 坂井市 25
- 心安らぐ「ふるさと」として各地区を身近に 長野県 飯田市 26
- よみがえれ船上山の万本桜 鳥取県 琴浦町 27
- 協働によるまちづくりで地域課題を解決 佐賀県 28
- ヨロシママラソン大会を通じた交流人口の拡大 鹿児島県 与論町 29

文化・歴史

- 寄附者による事業参加型ふるさと納税で交流人口を拡大 青森県 弘前市 30
- 国の重要文化財指定を祝して「御船祭」を開催したい 茨城県 北茨城市 31
- 伝統と誇りを受け継ぐまちづくり 栃木県 那須烏山市 32
- 輪島塗職人による熊本地震被災陶器再生プロジェクト 石川県 輪島市 33
- 松代城の復元・戸隠の町並みや伝統を守りたい 長野県 長野市 34
- ふるさと納税で日本三大盆踊の共演を実現 岐阜県 郡上市 35
- 刈谷城を復元して歴史ロマン溢れるまちづくりを目指す 愛知県 刈谷市 36
- 聖徳太子ゆかりの文化財「達磨寺方丈」修理プロジェクト 奈良県 王寺町 37
- 地域における伝統芸能、文化の伝承 島根県 江津市 38
- 「平和への思いを共有するまち」の実現のために 広島県 広島市 39

福祉

- タイガーマスク運動支援プロジェクト 群馬県 前橋市 40
- 命をつなぐ「こども宅食」でこどもと家族を救いたい 東京都 文京区 41
- 「のってこらい」過疎地の交通手段を確保 三重県 熊野市 42
- 「小児筋電義手バンク」の設立 兵庫県 43

地域・産業振興

- ジオパークの推進とみまもりサービスでまちを元気に 青森県 むつ市 44
- 東日本大震災からの復興に向けた鉄道の活性化 岩手県 45
- 全国の食卓へ自慢のあわびとさざえをお届け 千葉県 南房総市 46
- 企業版ふるさと納税との連携による若者のUターン 富山県 立山町 47
- ふるさと納税で水源の里をもっと元気に 京都府 綾部市 48
- ITを活用した起業家(スタートアップ)の支援 兵庫県 神戸市 49
- ののちゃんの魅力全開プロジェクト 岡山県 玉野市 50
- テクノロジー×アートで若者の地元定着を目指す 山口県 宇部市 51
- 古民家カフェがつなぐ、人と人 愛媛県 西予市 52

観光・交流

- 築80年の木造廃校舎を人が集う拠点へ 福島県 昭和村 53
- 木曾川うかいの伝統を未来につなげる 愛知県 犬山市 54
- 歴史ある駅の再生とにぎわいの創出 滋賀県 日野町 55
- 聖地巡礼を導く悠久の自然を守りたい 和歌山県 田辺市 56
- ふるさとに愛着を持つ人たちのつながりを活かす 鳥取県 日野町 57
- 地域おこし協力隊によるインターナショナルシェアハウスの開業 岡山県 真庭市 58
- 学校存続にむけた地域一体の移住促進の取組 高知県 室戸市 59
- 古き良き日本の田舎を感じるゲストハウスを建てたい 高知県 越知町 60
- 世界文化遺産「三池炭鉱」を世界に発信する 福岡県 大牟田市 61

環境

- 貴重な湿地と生態系保全への取組 愛知県 尾張旭市 62
- 生駒山の森林と人々の営みを守る 奈良県 生駒市 63
- 美しいサンゴ礁の海を守りたい 沖縄県 読谷村 64

安全・復興

- 命を守る「災害救助犬」「セラピー犬」を育てる 徳島県 65
- 安全で安心して暮らせるまちづくりのために 福岡県 福岡市 66
- 熊本地震からの復旧・復興に向けて 熊本県 熊本市 67

企業版ふるさと納税

企業版ふるさと納税の概要

70

- コンパクトシティの推進加速化と地域資源エネルギー調査 北海道 夕張市 71
- 世界遺産白神山地の保全を通じて「高質な田舎」を実現するプロジェクト 秋田県 72
- ねごとこんにやく下仁田奨学金事業～金融機関と連携した教育制度の充実施策～ 群馬県 下仁田町 73
- 博物館を核とした航空宇宙産業都市魅力向上事業 岐阜県 各務原市 74
- たまの版地方創生人財育成プロジェクト 岡山県 玉野市 75
- スタジアムリニューアルによる魅力向上プロジェクト 佐賀県 鳥栖市 76

ふるさと納税

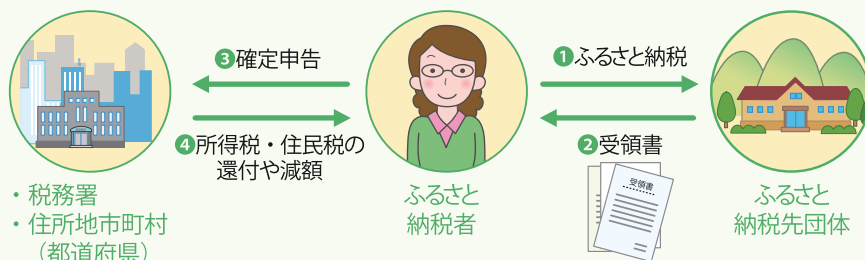
60事例

ふるさと納税とは？

制度の概要

ふるさと納税は、都道府県又は市区町村に対してふるさと納税（寄附）をすると、ふるさと納税（寄附）額のうち2,000円を超える部分について、一定の上限まで、原則として所得税・個人住民税から全額が控除される仕組みです。

自分の生まれ故郷や応援したい地方団体など、どの地方団体に対するふるさと納税（寄附）でも対象になります。



ふるさと納税 ワンストップ特例制度

確定申告が不要な給与所得者等について、ふるさと納税先団体が5団体以内の場合で確定申告を行わない場合に限り、ふるさと納税（寄附）をする際にふるさと納税先団体に特例の申請をすることにより、確定申告不要で控除を受けることができます。

災害時における被災地への支援

ふるさと納税は、各地方団体において、地震や台風などの災害時における被災地への支援としても活用されています。

【参考】被災地への支援の例 (平成28年度)

熊本県：約8.0億円(対前年度7.6倍)
熊本県内市町村：約72.5億円(対前年度6.8倍)
新潟県糸魚川市：約4.5億円(対前年度11.1倍)



地震により損害を受けた熊本城

また、近年、大きな自然災害が発生した際、一部の地方団体において、被災地方団体に代わりふるさと納税を受け付け、後日、まとめて被災地方団体に届ける取組が行われています。被災地方団体にとっては、こうした取組により、寄附金受領証明書発行等の事務負担が軽減されています。

ふるさと納税に関する各種データ（毎年度の受入額の推移や税額控除の実績等）については、総務省ふるさと納税ポータルサイトにおいて掲載しています。

http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_zeisei/czaisei/czaisei_seido/furusato/archive/

ふるさと納税のさらなる活用

さらなる活用に向けた2つの視点

今後、ふるさと納税を行う方の裾野を拡大し、ふるさと納税で得られた資金がそれぞれの地域でさらに有効に活用されるためには、各地方団体の取組において、次の2つの視点が重要であると考えています。

ふるさと納税の使い途を地域の実情に応じて工夫して、事業の趣旨や内容、成果をできる限り明確化

(例)クラウドファンディング(インターネットを介して、個人から少額の資金を調達する仕組み)として、事業の趣旨や内容をわかりやすく示してふるさと納税を募集

ふるさと納税をしていただいた方との継続的なつながり

(例)ふるさと納税を行った方に対し、まちづくりへの意見募集や行事の案内のほか、交流会の開催などの取組を実施



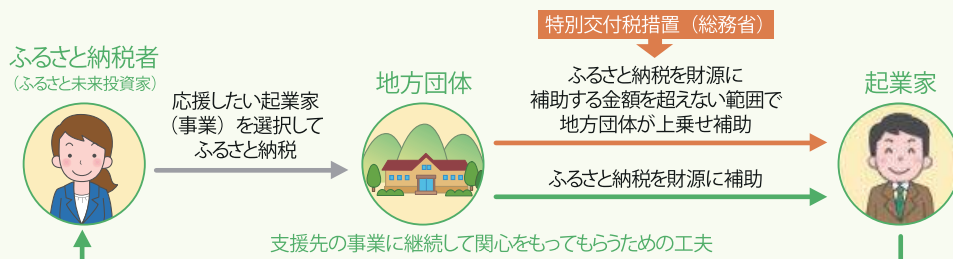
野田総務大臣がふるさと納税を活用して子育て支援に取り組む地方団体を視察している様子

総務省の支援策

総務省では、クラウドファンディング型のふるさと納税に取り組む地方団体を後押しするため、起業家支援、移住交流促進をテーマとした支援策を実施します。

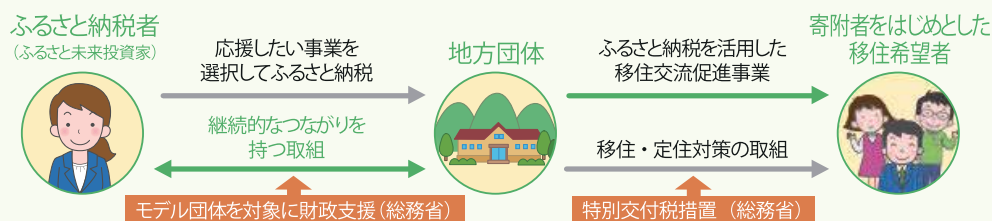
<ふるさと起業家支援プロジェクト>

地域経済の好循環の拡大が図られるよう、地方団体がクラウドファンディング型のふるさと納税を活用し、起業家に対して資金提供を行う。



<ふるさと移住交流促進プロジェクト>

ふるさと納税をきっかけとした継続的なつながりを持つ取組を通じて、将来的な移住・定住につなげる。





▶北海道夕張市

地域の課題を学んで 地域の未来を探し求める

夕張高校は、急速な人口減少や夕張市財政破綻後の小中学校統廃合の影響等により入学者数が減少しています。

そこで、「夕張高校魅力化プロジェクト」として、財政破綻を経験した夕張市ならではの教育環境を整備することとしました。具体的には、地域公共交通などの地域課題を教材とした教育プログラムの開発、自主学習のサポートや地域学習を活用した公営塾の開設等に係る費用を募りました。

募集にあたっては、高校を取り巻く課題や高校生の想いを分かりやすく発信するとともに、公営塾開設後に寄附者を招待し、高校生が学習の成果を発表する企画を検討しています。



夕張高校の学校祭



夕張市と公共交通を考える連携授業

注力した点や工夫した点

「夕張高校は絶対になくさない」というビジョンを明確にし、高校存続への想いと課題解決への道のりを分かりやすく示すことで、寄附者からのプロジェクトへの共感と応援を集めることができました。

Check

取組の効果

クラウドファンディング型のふるさと納税により、目標金額の3倍となるふるさと納税が寄せられ、平成30年4月には、公営塾の開設を予定しています。また、目標額を大きく上回ったことが報道機関に取り上げられたことで、さらに多くの応援の声が寄せられ、子どもたちを勇気づけています。

寄附者には、高校生

のチャレンジや取組の進捗を伝えるほか、公営塾の企画に参加してもらうことで関係人口の増加につなげます。



課題解決についてグループディスカッション



夕張市PR動画

寄附者の声



・これからの夕張高校の皆さんが、未来の日本社会を、明るく導いてくださる事を願っています。

住民の声



・多くの方が夕張市や夕張高校を応援してくださっていることを実感できました。(夕張高校在學生)

▶▶北海道遠別町

ふるさと納税で魅力ある
農業学校づくり

遠別農業高校は、町にとって農業の未来を担う大切な高校ですが、近年、入学者が減少しています。この状況を打開するため、魅力的な学校づくりの一環として、田んぼや畑の状態観測などの農業分野にドローンを活用するため、調査研究を新たに行うこととし、ふるさと納税により費用を募りました。募集にあたっては、寄附者の共感を呼べるよう、存続の危機に直面した高校が最先端の研究で復活するというストーリーを動画も活用して分かりやすく示しました。

ふるさと納税により整備された
タブレット端末

圃場でのドローン実習

取組の進捗状況については、ウェブサイト等に掲載するほか、札幌市内のアンテナショップでも情報発信しています。また、寄附者に対しては、事業報告を行うとともに、高校の生徒からのお礼のメッセージを届けました。

注力した点や
工夫した点

町役場だけでなく、教育関係者、事業者、生産者が連携して取り組めるよう頻繁に情報交換を行い、危機感を共有しました。

Check

取組の効果

ふるさと納税で得られた資金により、ドローン実習の実施やタブレット端末を購入することが可能となり、魅力ある学校づくりを推進することができました。

また、ふるさと納税を募集することによる町外への情報発信に加え、札幌市内に「遠別農業高校アンテナショップ」を開設し、高校及び町の取組みをPRしており、地元のメディアでも大きく取り上げられました。

その結果、高校への入学者が、毎

年着実に増加し、平成29年度には、ふるさと納税をきっかけに県外出身者が入学しました。町内で農業に従事する卒業生もおり、町の産業活性化にもつながっています。

授業のなかで羊を飼育し、
食品加工や農業生産に取り組む

アンテナショップの情報発信コーナー

寄附者の声

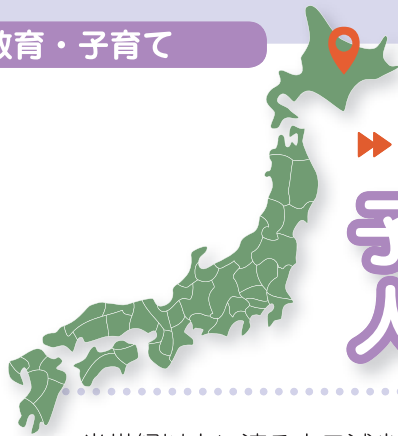


・ドローンを有効活用できれば、農業の可能性も広がると思います。

住民の声



・ふるさと納税のおかげで高校だけでなく地域が活性化しました。ありがとうございます。



▶北海道 上士幌町

子育て支援の充実による人口増

半世紀以上に渡る人口減少の中で、より住みやすい町づくりと、都市住民の移住を後押しするため、基金を設置し、ふるさと納税を活用した子育て・少子化対策に重点的に取り組みました。

この基金を活用して、認定こども園の保育料を10年間完全無料化し、英語教育のための外国人講師を配置しています。さらに、小学校の教職員を加配し、少人数学級の実現や、公設民営塾の開設など、安心して子育てができるまちづくりを進めています。

また、寄附者との継続的な交流に努めており、寄附者に職業案内、移住体験ハウス等を紹介するイベントや、移住を検討している寄附者を実際に町に招いて生活体験していただく「上士幌まるごと見本市ツアー」を開催しました。



上士幌町認定こども園 ほろん



アメリカ出身の英語教師による授業風景

注力した点や工夫した点

寄附者と継続的な交流を持つことで、まずは「上士幌町のファン」になっていただき、最終的には町へ移住していただけるよう取り組んでいます。

Check

取組の効果

ふるさと納税を基金に積み立て、子育て・教育関係者の意見を事業に反映させながら事業を実施することで、既存事業では為し得なかった教育の質を高める事業が実施できています。

これらの取組が功を奏して、平成28年に13年ぶりに人口が31人増加しました。さらに、平成29年には71人の人口増がありました。人口構成

上、自然減は止まっていない中での人口増であり、都市部からの社会増が要因となっていると考えられます。



平成29年2月に東京で開催した「上士幌まるごと見本市」の様子



「上士幌まるごと見本市ツアー」では寄附者を上士幌町にご招待

寄附者の声

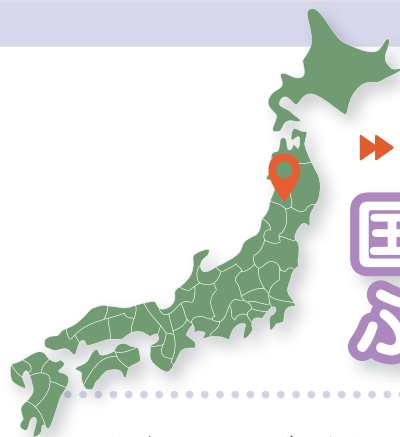


・これからの未来を担う子どもの成長を支える環境が整った町になっていくことを願っています。

住民の声



・夫の転職を機に、家族で上士幌町に移住しました。子育て環境が充実しており、安心して子育てに取り組んでいます。



▶▶秋田県湯沢市

国際交流事業の充実と ふるさとでの雪下ろし

湯沢市では、子どもたちの国際交流事業の一環として、平成3年から交流都市であるドイツのジークブルク市との間で、中学生の相互派遣交流を実施しており、その派遣・受入経費にふるさと納税を活用して事業を拡充することで、平成28年度は過去最多の22人を受け入れることが出来ました。

地方に生まれ育った中学生にとって、外国の方々との交流は非常に貴重な経験であり、異文化に触れることで、視野を広げ国際意識の向上に寄与することを期待しています。



ドイツジークブルク市からの訪問団をお迎え



湯沢市は全国でも有数の豪雪地帯

注力した点や工夫した点

「地域を想う気持ち」によって、地域課題の解決ができないかと考え「雪下ろし代行サービス」の提供を開始しました。地元を離れた方々が家族や地域を想い利用してくれることを期待しています。

Check

取組の効果

交流事業に参加した中学生達は、異文化に触れ新鮮な驚きを得ると共に、自分の生活態度を見直したり、進路について真剣に考えるようになったといった効果が見受けられました。

「雪下ろし代行サービス」は報道機関に取り上げていただいたことで注目を集めており、このサービスをきっかけに寄附者の方がふるさととのつながりを意識

し、いつかふるさとに戻ってきていただけることを期待しています。



ドイツジークブルク市の学校へ4日間体験通学（平成27年）



雪下ろし代行サービスの様子

寄附者の声



・実家の親が作業をするのが心配で、こういったサービスがあると助かります。

住民の声



・自分と同世代ながら、将来を見据えている姿を見て、良い刺激を受け、大変貴重な機会となりました。（交流事業に参加した中学生）



▶▶山形県長井市

新たな命におめでとうの 気持ちを込めて

長井市では、子どもが生まれた世帯に育児用品等が入った箱「BabyBox」を贈るプロジェクトを立ち上げました。オリジナルデザインのBOXに詰められた子育て用品は、ひとつひとつ地域の企業・伝統工芸職人・NPO・市民・行政が協力して作り上げたものです。

「BabyBox」の開発費、発案者である地域おこし協力隊員の起業に必要な経費をクラウドファンディング型のふるさと納税で募集しました。完成した「BabyBox」は、平成29年4月から市の窓口で子育て世帯に対して贈呈しています。

また、「長井小学校第一校舎」を新たに交流拠点として整備し、市出身者等で構成される「ふるさと長井会」の会員や寄附者等との交流事業を通じて新たな人の流れを生み出すことにも力を入れています。



BabyBoxのの中身



交流拠点として整備された旧・長井小学校第一校舎

注力した点や工夫した点

市の子育て・教育に対する想いや、寄附の使い途を具体的に示すことで、特に子育て世代の共感を呼び、全国から寄附が集まりました。

Check

取組の効果

「BabyBox」は、グッドデザイン賞の受賞などによって多くの報道機関に取り上げられ、注目を受けました。

きっかけとなり、将来の移住候補者や新たな人の流れを生み出す取組となるよう期待しています。

「BabyBox」事業は、地場産業の振興、市民の活躍の場や地域との交流の創出にも繋がり、子育て支援と同時に様々な地域課題を解決する手段となっています。「長井市で子育てがしたい」と選んでもらえる一つの



地域おこし協力隊によるお母さんのニーズ調査



平成29年4月、第一号となるBabyBoxの進呈

寄附者の声



・地域おこし協力隊を中心に、自治体、地場産業、地域のママ達まで巻き込んだ子育て支援であり、とても温かみを感じました。

住民の声



・子どもだけではなく、ママへのプレゼントという感じでとてもうれしく思いました。

▶▶福井県

学生たちの希望を ふるさと納税で叶えたい

福井県では、ふるさと納税を活用し、県内高校生へ2つの支援を行っています。

一つ目は「ふるさと母校応援」です。応援したい高校を指定し、ふるさと納税を行うと、寄附額の1/2が、当該高校の施設整備や研修活動費等に活用され、残りの1/2が、返還不要の給付型奨学金「福井県きぼう応援奨学金」の財源として活用されます。

二つ目は「長期海外留学支援」です。留学希望の学生を応援し、

世界で活躍できる人材育成のため、長期留学に対する奨学金制度を設けています。

寄附者に対しては、寄附先の学校からの活用実績の報告や感謝の手紙、海外留学中の学生からの留学中の生活や成長の様子を伝えるレポートを送付しています。



母校応援による自習室整備



支援した留学生が出演するふるさと納税PR動画

注力した点や工夫した点

- ・各高校の同窓会にて、卒業生へ「ふるさと母校応援」の周知を行いました。
- ・県のウェブサイトにも留学生が出演するPR動画の掲載や、本県出身の留学経験者へ制度の周知協力を依頼しました。

Check

取組の効果

「ふるさと母校応援」では、自習室の整備や講演設備の充実、部活動の備品購入、学生の短期海外研修など、学校ごとに必要な事業に活用しています。また、「福井県きぼう応援奨学金」を活用し、平成27年度より、毎年約20人が高校へ進学しています。



支援した留学生が海外で学ぶ様子

「長期海外留学支援」では、平成28年度より学生への支援を実施し、アメリカ、ドイツ、中国などへ長期海外留学をしています。



母校応援による講演設備の充実

寄附者の声



- ・母校の生徒が卒業後に大きく羽ばたくことを期待し、お手伝いします。

住民の声



- ・全国の方からの応援が励みになります。(留学生)
- ・高校生が、経済的負担を気にすることなく長期留学にチャレンジできる良い制度だと思います。



▶長野県白馬村

地域資源を最大限活用した 白馬高校魅力化プロジェクト

生徒数の減少から廃校の危機に瀕した村内唯一の県立高校である白馬高校を存続させるため、山岳環境や定住外国人も含めた人的資源など、地域資源を最大限に活用した「国際観光科」を新設し、生徒を全国から募集することとしました。

生徒募集の情報発信や事業のPRも兼ねて、クラウドファンディング型のふるさと納税を実施しました。平成28年度には受験指導等を行う公営塾や、全国からの生徒を受け入れる教育寮の設置・運営等の費

用、平成29年度には生徒の留学を支援する費用を募りました。

また、地域内外の事業者から社会人講師の派遣等により白馬高校を応援いただく制度も創設しました。

寄附者に対しては、留学を経験した生徒からのレポートを送付することで事業の成果を報告しています。



公営塾「しろうま学舎」のプロジェクト学習



教育寮「しろうまPalHouse」の寮生とスタッフ・関係者

注力した点や工夫した点

ホームページやSNS等への掲載のほか、村開催の観光客向けイベントや都市部開催の移住セミナーでのチラシ配布、ポスター掲示などの情報発信をしています。

Check

取組の効果

ふるさと納税をきっかけに、県外出身者を含め、入学者数が増加傾向に転じ、平成26年度には150名を下回っていた全校生徒数が、現在は200名を超えています。

ふるさと納税の活用により、平成29年より毎年20名の生徒がニュージーランドに留学し、多文化に触れながらより実践的に英語を学ぶ機会を得ています。

取組の結果、地域住民の白馬

高校に対する愛着も高まり、授業へ協力する事業所や白馬高校とのコラボ企画を提案する企業も増えています。



白馬高校でのニュージーランドの高校生との交流の様子



JR白馬駅で信州DCキャンペーンのイベントに協力

寄附者の声



・地域に根差しながらも世界に通用するグローバルな人材づくりはとても素晴らしい取組だと思います。

住民の声



・白馬高校を卒業した子どもたちが白馬村の未来を牽引してくれるのが楽しみです。



▶京都府長岡京市

こどもたちに本を贈ろうプロジェクト

幼少期に多くの本に触れることは、こどもの表現力や想像力を養う上で非常に大切なことです。こどもたちにとって一番身近な学校の図書館で、もっと自由に英語の本をはじめ多彩な本を読んでもらいた

いとの思いから、事業をスタートしました。寄附者の想いが届きやすいように、寄附先の学校や贈る本を指定可能としています。寄附者に対しては、こどもたちからのお礼状や読書感想文を送付しています。また、希望者には、四季折々の長岡京市の景観写真とともに広報紙を定期的に送付するなど、寄附者とのつながりを大切にしています。

いとの思いから、事業をスタートしました。寄附者の想いが届きやすいように、寄附先の学校や贈る本を指定可能としています。

寄附者に対しては、こどもたちからのお礼

状や読書感



ボランティアサークルにより行われる絵本読み聞かせの様子



こどもたちに贈られる英語図書などの多彩な本

注力した点や工夫した点

事業の目的、途中経過、結果など事業の内容がすべて見えるように、随時、市のウェブサイト等に掲載し、プロジェクトを寄附者と共有しています。

Check

取組の効果

各学校の卒業生や保護者等への呼びかけや学校のウェブサイトへの情報掲載等を行っています。市外在住の卒業生からの寄附により、約 300 冊

寄附者からは、母校への恩返しや、これから世界に羽ばたくこどもたちへの贈り物にもなると、共感が集まっています。

の本を購入することができた学校では、ふるさと納税により購入した本を開架するスペースを新たに設置しました。

募集方法のリニューアル後、各学校への累計納入冊数が約 1,500冊となり、こどもたちが本を手にする機会が増えています。



ふるさと納税により新たに設置された「やすらぎ文庫」



「ありがとう」の気持ちを込めた、こどもたちから寄附者へのメッセージ

寄附者の声



・こどもたちが色々な本に出会い、表現力や想像力を育てるお手伝いできればと思います。
・応援したいメニューがあるのはとても良いと思います。

住民の声



・英語の勉強に役立つし、本の内容もおもしろかったです。クラスで楽しく読みました。(小学生)



▶ 鳥取県

制度の原点に立ち返った取組で子どもや被災者を支援

鳥取県では、未来を担う子どもたちのためにふるさと納税を活用すべく、「こども未来基金」を設置し、子どもたちへ図書を贈る事業や、県立学校の運動部活動を促進するために地域の専門家を外部指導者として招く事業に取り組みました。また、平成28年10月に発生した鳥取県中部地震の復興事業にも取り組んでいます。

活用状況については、具体的な成果も記載した活用実績報告書を寄附者全員への送付するとともに、県のウェブサイトにて公開しています。

また、寄附者にはお礼

状の送付に加え、鳥取をより知っていただけるよう、県情報誌やトピックスを送付するなど、ふるさと納税後の継続的なつながりを持つための取組を進めています。



鳥取県立図書館の児童書コーナーの整備



平成28年鳥取県中部地震からの復興

注力した点や工夫した点

年度終了後の活用実績報告書の送付に加え、年度中途においても活用状況を県のウェブサイトに掲載し、寄附の成果や進捗状況が寄附者に伝わりやすいように取り組んでいます。

Check

取組の効果

ふるさと納税で集められた資金により、子どもたちに累計で約4万冊もの本を贈ることが出来ました。また、鳥取県中部地震の復興事業として

国の支援対象外である一部損壊住宅への支援など、多くの具体的な事業が実施出来ました。

ふるさと納税は、日本の寄附文化を育てる上でも大きな意義を

持っており、ふるさと納税の使い途に着目した取組を通じて、寄附文化の醸成が進むことを期待しています。



寄附者全員へ活用実績を送付



引き続き鳥取県へ関心を持ってもらうため、鳥取の旬のトピックスをお知らせ

寄附者の声



・定期的にトピックスを送るなど県のPRについて熱意を感じます。

住民の声



・みなさんのおかげで大好きな地元にいることを大変喜んでます。ありがとうございます。(鳥取県中部地震被災者)

▶▶岡山県和気町

公営塾の開設で「教育の町」
和気町を復活させたい

和気町では、教育の町「和気」を目指し、公営塾の設置、放課後学習支援の充実などに取り組んでいます。中でも公営塾は、英語に長けた人材を育てようと、平成 28 年に本格的な運営を開始しました。

運営費用をクラウドファンディング型のふるさと納税で募集することにより、当初は土曜日、中学生のみでしたが、その後、毎週水曜日も開催し、対象も小学校 5～6 年生まで拡大しました。また、月 1 回幼稚園年少から小学校 4 年生を対象とした

「公営塾 KIDS」も開催し、学年・学校の枠を超え、それぞれ教え合ったり、競い合う姿が見られます。

ふるさと納税の実績については市のウェブサイトで報告し、寄附者に対しては、お礼状とともに公営塾の活動状況をお知らせする予定です。



日本最古の庶民の学校「閑谷学校」



公営塾の授業風景

注力した点や
工夫した点

ふるさと納税の募集にあたっては、日本最古の庶民の学校「閑谷学校（しずたにがっこう）」ゆかりの地であることや、町の英語教育における具体的な目標を分かりやすく寄附者に示しました。

Check

取組の効果

ふるさと納税によって、多数の教材を購入することができました。平日開講の実施や対象生徒の拡大により、参加者が増え、報道等で大きく取り上げられました。

ふるさと納税による支援を励みにすることで、子どもたちの学習意欲が向上したほか、購入した教材等による学習環境の整備の結果、公営塾の生徒の約 2 割が英検 3 級、準 2 級に合格



放課後学習支援



公営塾の学習風景

しました。また、和気町が「教育の町」として知られてきたこともあり、平成 28 年度の移住者が前年度の約 3 倍となるなど町の活性化にもつながっています。

寄附者の声



・子どもの教育は、長い目で見ると将来地域の発展に必ず繋がります。応援しています。

住民の声



・子どもたちが皆様の思いを受け、健やかに、大きく育つ事を期待します。



▶ 徳島県石井町

移動図書館車の復活を ふるさと納税で叶える

石井町の移動図書館車「ふじっこ号」は、ボランティアが町内の幼稚園や保育所を巡回し、絵本や紙芝居の読み聞かせなどを行う際に活用されていましたが、老朽化により廃止されました。廃止後もボランティア団体が個人所有の車を使い、読み聞かせを行っていましたが、図書館車復活を求める要望が多く出てきたことから、新車購入の費用をふるさと納税で募ることにしました。

募集にあたっては、

町役場職

員のみならずボランティア団体や町外の方などからも、パンフレット作りや県内外への広報、募金箱設置などに協力してもらいました。

運行を開始する際には、寄附者に対し、お礼のメッセージや、運行開始式の案内を送ることとしました。



平成 28 年 8 月まで運行していた
移動図書館車の「ふじっこ号」



運転手の男性と子どもたちが
一緒に絵本を選んでいる様子

注力した点や
工夫した点

移動図書館車購入支援のパンフレットを作成し、様々な施設に配布したり、ふるさと納税のポータルサイトに取組を掲載するなど、少しでも多くの方に図書館車購入の取組を知ってもらえるように努めました。

Check

取組の効果

複数の報道機関に取り上げられ、予想を上回る短期間で目標金額が集まりました。今回の取組を通じて、地域の課題とその解決手段としての事業の必要性、集めたふるさと納税の使い途をわかりやすいストーリーで示すことができれば、多くの寄附者から共感を得られることがわかりました。

また、ふるさと納税をきっかけとして石井町のファンを増やしていくとともに、いわゆる「関

係人口」の構築にも繋げていきます。

町民にも愛され、寄附者にも喜んでもらえるよう、移動図書館車を活用していきます。



読み聞かせグループ「ふじちゃんず」
による読み聞かせ



読み聞かせグループ「ふじちゃんず」の
メッセージとパンフレット

寄附者の声

- ・「ふじっこ号」の復活を応援します！
- ・私も本が好きなので、ぜひ子どもたちに絵本と楽しい時間を届けてください。

住民の声

- ・新しい図書館車が来たら子どもたちは喜ぶと思います。
- ・たくさんの絵本に触れて、感動や想像力を高めてもらいたいです。

▶▶長崎県五島市

離島のハンデを乗り越える
ためICTで教育充実

五島市は、小学校13校、中学校8校、小中併設校が3校あり、その中には5学級以下で構成される複式学級を持つ小規模校もあります。また、離島であるが故に、課外授業や部活動の遠征・合宿で島外へ出るのにも船や飛行機を使わなければなりません。

そのような中で、五島市では、「島の子どもと他校、他県、世界の人との交流を」という目標の実現に向けて、ICT環境の整備を積極的に進めており、その財源に全国から寄せられたふるさと納税を

用しています。

各学校に設置した機器を使って子ども達が授業を受ける様子を、寄附者へのお礼動画として市が制作し、動画サイトや市のウェブサイト等で公開しています。



他校の「同級生」との授業



北海道の小学校との合同授業

注力した点や工夫した点

ICT支援員を配置し、各学校での研修会の開催、電子機器の操作マニュアル作成を行うことにより、不慣れた教師であっても、寄附による支援が最大限活用されるように気を付けています。

Check

取組の効果

市内の小中学校に電子黒板機能付きプロジェクター、プロジェクターを投影するためのスクリーン、タブレットなどを設置しています。

ICT環境が整ったことでインターネットを活用したビデオ通話により遠隔授業が可能となり、学校規模に関係なく学校間の交流を行うことができます。

小学校では、島内の小規模校同士で一斉授業を実施したほか、北海道の小学校と遠隔授業を行いました。

中学校では、外国語指導助手のア

メリカ在住の友人と英語で交流し、自己紹介や五島市の紹介などを行いました。自分の英語が通じたことで、生徒には自信が生まれ、英語を学ぶ上での励みになりました。



電子黒板機能付きプロジェクター



島の子どもがアメリカ在住の方と英会話で交流

寄附者の声



- ・日本の未来を背負う子ども達が五島の良さを十分知って、日本や世界に発信して欲しいです。
- ・次世代への投資ができた気分です。

住民の声



- ・外国語指導助手の友人と交流することが出来て、楽しく、良い経験になりました。(中学校在学)

▶▶ 沖縄県宜野湾市

未来を担う国際性のある若者を育成

宜野湾市では、基地返還後の跡地利用に向けて、国際的な視野を持って将来活躍できる人材を育成するための事業に積極的に取り組んでいます。これまで、市内中学生を対象に夏休み期間中のアメリカ留学を支援してきましたが、留学を希望していても、経済的負担を理由に留学を諦めるケースがありました。

そこで、希望する生徒に対し平等に留学の機会が与えられ、自己負担を求めずとも留学できるようにするための財源につ

いて、クラウドファンディング型のふるさと納税で募ることとしました。

寄附者に対しては、生徒の留学先での体験や研修などの様子を収めた報告書とともに、生徒からのお礼のメッセージを送付することとしています。



アメリカ留学先での様子



留学候補者選考のための英語ストーリーコンテストで1位となった生徒

注力した点や工夫した点

ふるさと納税の募集にあたっては、留学候補者を選考するための英語ストーリーコンテストにおいて生徒がひたむきに取り組む様子や、生徒のコメントを紹介するなど、寄附者の共感が集まるように努めました。

Check

取組の効果

ふるさと納税を通じて全国から温かい支援が届けられたことで、留学希望者が増加するなど、生徒たちの学習意欲の向上につながっています。

クラウドファンディング型のふるさと納税で募集したことで、取組が報道機関に取り上げられたこともあり、市に対するふるさと納税は取組前と比べて2倍以上に大きく増加しています。ふるさと納税をきっか

けとして、基地の現状や基地返還後を見据えた市の努力等についての理解が広がることを期待しています。



有楽町駅前広場にて取組をPR



留学後の帰国報告会

寄附者の声



・中学生の皆さんがより多く留学でき、将来活躍されることを祈ります。

住民の声



・留学するチャンスを頂き、ありがとうございます。アメリカに留学したら文化などにふれて、英語が上達するように頑張ります。また留学の経験を活かして将来、宜野湾市で活躍できるよう頑張ります。(留学候補の生徒)

▶▶北海道ニセコ町

ふるさと納税で離れていても
まちづくりに参加

まちづくりへの共感やふるさとへの想いを持つ人々が離れていても地域づくりに参加できるよう、「ニセコ町ふるさとづくり寄付条例」を制定し、ふるさと納税を活用して、木製玩具の整備や有島武郎の自筆書簡の収集などの具体的な事業を実施しています。

また、住民自治のまちづくりを推進する観点から、「ニセコ町まちづくり基本条例」に基づき、公募町民等で組織されている「ニセコ町まちづくり委員会」において意見を聴いた上で、ふるさと納税の活用事業を決定して

います。

寄附者に対しては、定期的にお便りを送付し、町の最新情報やふるさと納税の活用状況等を知らせることで、よりニセコ町を身近に感じていただけるよう努めています。



まちづくり委員会



移住相談会

注力した点や工夫した点

町のウェブサイトでもふるさと納税を募集するほか、首都圏で開催している移住相談会や産直フェアでも積極的にふるさと納税をPRしています。

Check

取組の効果

寄せられたふるさと納税の資金を活用し、ニセコ町の幼稚園と保育所の複合型施設である幼児センターに通う子ども達が木に触れて遊ぶように、木製のブロックやオルゴールなどの玩具を整備しました。このような取組をはじめとした町の子育て支援施策の効果もあり、幼児センターに通う子どもが増加しています。



カブラブロックで遊ぶ子ども達



幼児センターで元気に遊ぶ子ども達

寄附者の声



・ニセコファンの一人として、町に役立ててもらいたいです。

住民の声



・ふるさと納税のおかげで一層子どもたちが健やかに育つ環境を整えることができました。ありがとうございました。(幼児センターの先生)



▶群馬県高崎市

文化やスポーツを盛り上げて まちを活性化させたい

高崎市では、まちづくりの大きな柱に掲げている文化やスポーツの一層の振興を図るため、ふるさと納税の使い途について、高崎市を拠点とし、市の地域振興に多大な貢献のある文化・スポーツ団体として、交響楽団のほか、地元野球チーム、企業のソフトボール部や陸上部等への活動支援を追加することとしました。

寄附者の意思を尊重する形で団体を特定して支援することにより、寄附者がふるさと納税を行うインセンティブを高め、本市の文化やスポーツの振興と発展に繋がるものと考

えています。

寄附者に対しては、支援先の文化・スポーツ団体の活動状況をお知らせする予定であり、ふるさと納税後も寄附者に関心をもっていただけるような取組を行っていきます。



群馬交響楽団



群馬ダイヤモンドペガサス（地元野球チーム）

注力した点や工夫した点

各団体の活動と市が取り組むまちづくりがともに充実するよう、広報誌や市のウェブサイトにおいて、この取組を紹介し、各団体への一層の支援を呼びかけました。

Check

取組の効果

地域に根ざした活動を行う各文化・スポーツ団体が、ふるさと納税を通じて示された寄附者の思いを受け止めながら活動を充実させていくことで、地域の活性化が図られることを期待しています。

また、寄附者に対して支援先の文化・スポーツ団体の活動状況などをお知らせすることにより、寄附者が本市に足を運ぶきっかけとしていただくなど、

ふるさと納税を契機とした交流人口の拡大に努めていきたいと考えています。



女子ソフトボールチームの選手



女子ソフトボールチーム
上野選手

寄附者の声



・小さい町でオーケストラを運営していくのは大変だと思いますが、頑張ってほしいと思います。

住民の声



・文化芸術に秀でた若い人を育ててください。
・将来有望な選手が育ち、活躍することを期待しています。



▶▶神奈川県横須賀市

使い途に共感してもらおうための 具体的な12の基金

横須賀市では、条例で子育て、福祉等に係る12の基金を設置し、ふるさと納税で選択された使い途に応じて、各基金に積み立てた上で、それぞれの目的に沿った事業に充当しています。例えば、基金の一つ

各基金の使い途をお知らせするために、写真や活用事業の詳細を掲載した活用状況報告書を郵送し、使い途に共感してふるさと納税先として選んでもらうことを目指しています。

「子育て基金」では、子どもを産み育てやすい環境をつくり、子育てを支援するため、子育て支援ヘルパー派遣事業等の一部にふるさと納税を充当しています。



NPOによる福祉施設訪問
(NPO支援基金)



猿島公園内の遊歩道の整備
(猿島基金)

また、前年度の寄附者に対し、

注力した点や工夫した点

寄附の活用先については、各基金所管課と密に連絡をとり、ふるさと納税をしていただいた方の目に触れる事業や、活用に相応しい事業を選択しています。

Check

取組の効果

「子育て基金」では、産前産後に家事、育児の支援を要する家庭へのヘルパー派遣や放課後児童クラブへの助成等を実施することにより、市内における子育て支援の充実を図ることが出来ました。

「附の使い途に共感をした」という声もいただき、本市の使い途の明確化と積極的なPRの効果として、ふるさと納税受入額も増加傾向となっています。

寄附者に対する活用状況報告書の送付が寄附者の追加的なふるさと納税につながり、直近のデータでは、いわゆるリピーター率は約3割と着実に増えています。寄附者向けのアンケートでも、寄附の理由として、「寄



放課後児童クラブへの助成

寄附者の声



・高齢の母が単身で暮らしています。今後とも高齢者の助けとなるような活用をどうぞよろしくお願いいたします。(福祉基金を選択した寄附者)

住民の声



・産前産後の大変な時期に、家事などを手伝っていただき大変助かりました。(子育て支援ヘルパー派遣事業利用者)



▶富山県氷見市

ハンドボーラー憧れの地として 選手権大会を存続

氷見市は、小中学生のチームが全国優勝するなど、ハンドボールが盛んな市であり、平成17年度からは「春の全国中学生ハンドボール選手権大会（春中ハンド）」を開催しています。しかし、春中ハンドの開催にあたり、大会の継続開催に向けた資金確保が課題となっていました。

そこで、ふるさと納税の使い途として「春中ハンドの継続開催に向けた支援」を加え、さらに、クラウドファンディング型のふるさと納税を併せて実施しました。

また、氷見市に縁がある首都圏在住者で組織する「東

京氷見会」に取組への協力を依頼しました。

寄附者に対しては、春中ハンドの大会プログラムや大会決勝戦のチケットを届けることで、大会期間中に氷見市へ足を運んでもらえるよう工夫しています。



地元中学生ハンドボーラーも躍動



地元中学校の代表選手による選手宣誓

注力した点や工夫した点

ハンドボール雑誌で取組を紹介していただくなど、ハンドボールのファンの方にも取組を知ってもらえるよう広報活動に力を入れています。

Check

取組の効果

全国各地からのご支援により、平成31年度の第15回大会まで継続開催となりました。また、大会期間中は、市内の地域ごとに各都道府県の代表チームを応援する「応援サポーター」が300人以上参加し、市民ぐるみで大会を盛り上げ、各地域とチーム関係者の交流も行われています。

また、この取組を通じてハンドボールファンの方に向けても氷見市の魅力を伝えることがで

きることから、市のPRにもつながり、相乗効果が生まれています。



地元中学生ボランティアが大会運営をお手伝い



地元の応援サポーターと各都道府県代表チームの交流

寄附者の声



・学生時代はハンドボール部でした。競技引退後に、ふるさと納税という形でハンドボールに関わることができて嬉しく思います。

住民の声



・ハンドボールの楽しさをもっと多くの方に知ってもらいたいです。



▶▶ 福井県坂井市

市民の市民による 市民のためのふるさと納税

坂井市では、寄附金の使い途を重視して取り組む「寄附市民参画制度」を平成20年より実施しています。

この制度は、「坂井市寄附による市民参画条例」に基づき、まず、NPO団体、企業、高校生など幅広い世代や立場の方々から具体的なふるさと納税の使い途を公募し、市民代表をメンバーに含む寄附市民参画基金検討委員会にて使い途を決定します。

ふるさと納税の募集にあたっては、それぞれの使い途について事業に必要な目標額を設定し、ふるさと納税が目標額に達した段階で事業化が決定される仕組みです。

組みです。

事業毎の目標額の達成率は常にポータルサイト等で報告しており、寄附者に対し過去10年間の事業報告書を送付し、寄附金がどのように活用されたかを報告する予定です。



市民の方々から提出された事業提案書の一部



寄附市民参画基金検討委員会の様子

注力した点や工夫した点

ふるさと納税を活用する事業を市民が提案し、市民の意思で決定するような仕組みにより、市民の政策参加を可能としました。

Check

取組の効果

平成28年度までの9年間で延べ15件の事業を実施しました。

例えば、平成27年度に事業化した「ゆりの里グレードアップ事業」では、ゆりの里公園に子供たちが気軽に遊べる遊具（シーソー）を設置し、近隣に住む児童の憩いの場となっています。

平成28年度に事業化した「『一筆啓上のまち丸岡』を全国に発信する事業」では、丸岡古

城まつりで使用するからくり人形山車のリニューアルを行い、地元の祭りの活性化に一役買っています。



平成27年度事業化「ゆりの里グレードアップ事業」



平成28年度事業化「『一筆啓上のまち丸岡』を全国に発信する事業」

寄附者の声



・昨年寄附した事業が達成に至ったことを嬉しく思っています。ますます魅力的な街になりますよう祈っています。

住民の声



・寄附市民参画制度は、一般市民が市政について考える良い機会であり、良いまちづくりの第一歩となっています。



▶▶長野県飯田市

心安らく「ふるさと」として 各地区を身近に

飯田市では、自治基本条例をもとに、市内20地区全てにおいて地域自治を担う「まちづくり委員会」を組織し、市民と行政の協働によるまちづくりを進めています。

各地区で自主的に実施している事業をさらに積極的に支援するため、各地区の活動を直接応援できる「飯田市20地区応援隊」を開始しました。これは、地区が取り組む事業や活動状況をウェブサイト上で発信し、各地区の取組に賛同いただいた方々からのふるさと

納税を該当地区に交

付する仕組みです。これにより住民主体の魅力的な地域づくり施策のさらなる展開が図られます。また、各地区では、お便りや行事へのお誘いなど様々な形で寄附者との交流を行っており、関係人口の拡大、移住の促進を図っています。



ふるさと納税「飯田市20地区応援隊」ウェブサイトにて20地区を紹介



飯田市20地区応援隊ウェブサイトの地区ページ更新担当者向け操作説明会

注力した点や工夫した点

地区の活動状況を多くの人にアピール出来るよう、地区担当者が地区ごとの活動状況をより細かく、タイムリーにウェブサイトに掲載しています。

Check

取組の効果

地域の取組を市外の方へ発信することで、住民一人ひとりが地区の魅力を再発見することにつながります。

地区から寄附者へ広報誌等のお便りや元気な笑顔の写真などをお届けすることにより、寄附者は地区の様子を知ることができ、どこか心安らく「ふるさと」として地区を身近に感じることが出来ます。

こうした積み重ねにより、ふるさと納税をきっかけとした地区の応援団としての関係を将来的には移住定住に結びつけていきます。



松尾地区での学校支援ボランティア



川路地区では、延長保育を独自に運営

寄附者の声



・くだものまち、自然豊かなまちといった印象が残っています。まちのいいところをいつまでも残してほしいです。

住民の声



・地区外の方から応援をいただくことにより、地区が元気になる取組につなげられるという機運が高まりました。



▶▶ 鳥取県琴浦町

よみがえれ 船上山の万本桜

船上山一帯は「船上山万本桜公園」と呼ばれ、琴浦町が誇る桜の名所です。毎年4月下旬には、遅咲きのヤエザクラに合わせて「船上山さくら祭り」を開催していますが、近年、集中豪雨などにより倒木等が増加しているため、公園を訪れた方からは、ボリュームが小さくて残念との声が多く寄せられ、桜の復活を求める意見がありました。

そこで、ふるさと納税を活用し、10年、15年後には、「船上山万本桜公園」の名に恥じないような桜の名所へと

変貌させ、船上山の観光振興を図ることとしました。

寄附者に対する事業の成果や進捗状況を報告するため、「船上山さくら祭り」の開催と桜の成長のお知らせを送付しています。



さくら祭りの様子



植樹の様子

注力した点や工夫した点

地元住民と、琴浦町観光協会、琴浦町とで、取組に対してより多くの寄附者からの共感が得られるよう、これまでの植樹の歴史を調べながら、船上山の振興について、意見交換を重ねました。

Check

取組の効果

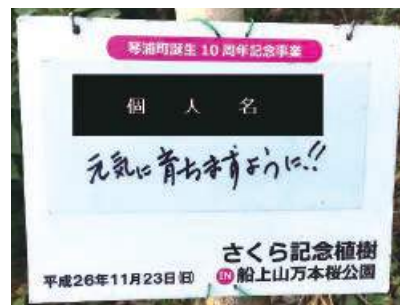
クラウドファンディング型のふるさと納税として募集し、目標を上回る金額を集めることが出来ました。平成26年度以降、130本の桜の植樹やその後の管理費用に充当しています。植樹当日は、地元住民で組織する団体が参加者に食事をふるまうなど、ふるさと納税をきっかけに住民が一体となり、まちづくりに取り組んだイベントになりました。

ふるさと納税していただいた

方に対して開催案内を毎年送付している効果もあり、桜の植樹後は、船上山さくら祭りの来場者数は、増加し、町外から足を運ぶ観光客も増えました。



当日の記念写真



メッセージの書かれたネームプレート

寄附者の声



・船上山さくら祭りへの招待チラシ及び植樹した桜の成長写真を見ると自分のふるさと納税が生きたお金になっていると実感します。

住民の声



・思い入れのある、自ら植樹した桜の成長とネームプレートを見るために万本桜公園に来ることが家族の楽しみになっています。



▶▶佐賀県

協働によるまちづくりで 地域課題を解決

地域の様々な課題に対応していくためには、行政と多様な主体による協働を推進していく必要があることから、佐賀県では、ふるさと納税の使い途の一つのメニューとして、様々なNPO法人等が行う具体的な事業を選択できる仕組みをつくりました。

事業の一つは、1型糖尿病^{*}の根絶です。病気の根絶に向けた研究資金助成や啓発活動に必要な費用をふるさと納税で募集しました。

また、玄海地区の水産業振興を支援する事業

では、釣り体験や魚のさばき方・干物づくり教室などを開催するなど、寄附者との交流を図っています。

^{*}主に子どもが原因不明で発症し、生涯にわたって毎日数回の注射等によるインスリン補充が欠かせない病



1型糖尿病の根絶を目指す事業



玄海地区での水産業振興事業

注力した点や工夫した点

ふるさと納税の募集を広くPRするため、首都圏で開催されたイベント等でNPO法人等と協働して、個々の事業内容を紹介するなど、情報発信に努めました。

Check

取組の効果

ふるさと納税を活用したことにより、1型糖尿病の根絶を目指す事業では、研究資金助成費用等が目標金額を超えて集まったほか、病気についての啓発活動の一環として、寄附者に対して絵本を送る活動を行った結果、病気の理解が広がっています。

また、足腰の弱った高齢者や免許証を返納した高齢者の移送サービスを

行う事業では、ふるさと納税で集まった資金で車両を購入し、住民のニーズに対応したきめ細やかな移送サービスを行うことができました。



高齢者の移送サービス事業
(病院への通院など)



首都圏でのふるさと納税PR活動

寄附者の声



・難病の1型糖尿病が根絶できますように、心からお祈りしております。

住民の声



・高齢者の移送サービスを受けています。今では運転していた時と同じような生活を取り戻せました。

▶ 鹿児島県与論町

ヨロンマラソン大会を通じた
交流人口の拡大

与論町で開催されるヨロンマラソンは、今年で27回目を迎え、リピーターも多く参加する大会であるとともに、都市と離島との地域交流の場として位置付けられています。大会をより魅力的なものとし、さらに認知度が高まることを期待し、大会の運営経費のためにふるさと納税を募集しました。

また、島の美しい自然環境を維持していくために、海岸へ漂着するゴミの清掃を行っているボランティアグループの活動支援として、ふるさと納税で集められた資金により助

成しました。

寄附者に対しては、お礼状を送付する際に与論町のガイドブックや町広報誌等を同封することで、与論町の現状を報告すると共に町の魅力を伝えており、ふるさと納税で生まれた縁を大切にしています。



ヨロンマラソンの風景

海岸清掃の様子
海から流れてきたゴミを拾うボランティア注力した点や
工夫した点

ヨロンマラソンの参加者に対して、効果的にふるさと納税の募集をPRするため広報活動を強化しました。

Check

取組の効果

ヨロンマラソンは、島民一体となりマラソンランナーを歓迎するため、全国からの参加者約1,000人よりも島内ボランティアの方が多く参加する町の一大イベントです。ふるさと納税を活用し、連続完走賞(15回以上)や最高齢賞、遠来賞などユニークな賞を設けることで、大会がさらに盛り上がりました。

また、漂着ゴミの

海岸清掃は、島外からの参加者を巻き込む活動に発展しており、これらの活動により、住民や町を訪れた観光客の環境美化意識が高まり、年々海岸が美しくなっています。



ヨロンマラソンのボランティア



遠来賞(左)、最高齢賞(右)の受賞者

寄附者の声

・とても美しい島なので、かけがえの無い自然を守り、島に暮らす皆様のより良い暮らしの為にふるさと納税を活用して頂きたいと思います。

住民の声

・海岸清掃用のゴミ袋をふるさと納税で購入いただき有難うございます。



▶青森県弘前市

寄附者による事業参加型 ふるさと納税で交流人口を拡大

弘前市では、ふるさと納税の使い途として、重要文化財である弘前城の石垣修理費用を募集するとともに、その時期にしかできない体験を通じて、弘前城や石垣修理について学んでもらおうと、工事の節目に合わせ石垣修理に関する体験イベントを実施し、寄附者に案内を送付しています。特に、平成27年に実施した天守を人力で引っ張る「天守曳屋体験」はメディアでも紹介され、多くの反響をいただきました。



ロープを力を合わせて引っ張り、人力で天守を動かした「天守曳屋体験」



築城当時、人力で石を運んできた方法を体験する「石曳き体験」

また、寄附者に年賀状を送付し、石垣修理や弘前4大まつりなど寄附の使い途に関する情報のほか、ふるさと納税についてのお知らせなどを記載し、寄附者とのつながりを大切にしてまちのPRを行っています。

注力した点や工夫した点

ふるさと納税による支援に止まらず、実際にまちを訪れて「天守曳家体験」に参加いただくことで、寄附者が楽しみながらより事業に貢献している実感を持ってもらえるよう工夫しました。

Check

取組の効果

体験イベントは寄附者がまちを訪れるきっかけとなっており、交流人口は増加し、今後も経済的な効果や将来の移住につながることを期待されます。

寄附者自らが楽しみながら弘前城や石垣修理について学ぶことで、ふるさと納税が石垣修理にどのように使われているか、自分の目で見て知ることができる機会となっており、弘前市のファンづくりにつながっています。



工事用足場を特別に歩き、解体が進む石垣を間近で見学

また、寄附者に年賀状を送付することにより、再度の寄附やイベントへの参加につなげています。



寄附者へ送った年賀状

寄附者の声



- ・世紀の石垣大修理に参加する事ができ、うれしく思っています。
- ・無事に引っ越しが終わった弘前城に会える日を楽しみにしています。

住民の声



- ・「天守曳屋体験」に参加することで、寄附者の方にお城を動かす達成感や歴史の重みなどを感じていただき感慨深いです。

▶▶茨城県北茨城市

国の重要文化財指定を祝して
「御船祭」を開催したい

「常陸大津の御船祭」は5年に1度、茨城県北茨城市で開催される春の大祭です。平成29年は、通常スケジュールでは開催年ではありませんが、国の重要無形民俗文化財に指定されたことを記念し、臨時開催しました。

毎回、祭りの日には、道路に木材を並べ滑らせるように船を引いていくため、祭りの度に船が傷み、修繕費用の確保が課題でした。これまで、地元を中心とした寄附、御船祭保存会の会費等で、祭りを開催してきましたが、今回の臨時開催にあつ

ては、既存の資金調達

に限界があったため、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングで開催費用を募ることとしました。

寄附者に対しては、積極的に祭りへの来場を働きかけるとともに、祭り当日の様子は市のウェブサイトにおいて掲載しました。



神輿を積み、引かれる船



祭り最大の見せ場
船の進行方向を直角に変える場面

注力した点や
工夫した点

ふるさと納税の募集にあたっては、祭りの見所である船を引く様子だけでなく、地域が一体となって祭りを盛り上げていることを写真を交えて示すことで、寄附者の共感を得ることができました。

Check

取組の効果

今回集まったふるさと納税は、船の修繕に加え、仮設観覧席の増設にも活用し、これまでよりも多くの方が祭り最大の見せ場を見ることが出来る環境を整えました。そうしたこともあり、臨時開催にも関わらず前回開催時の13万人を超える、16万人の見物客で賑わいました。

クラウドファンディング型のふるさと納税で募集したことで、祭りの開催費用を集めるだけでなく、市の魅力を全国に発信する手

段としても有効であったと考えています。

今後も、ふるさと納税で得られた寄附者との縁を大切に、御船祭の文化継承・魅力発信に努めていきます。



ソロバン（木枠）の上を走る船



船を引く子ども達

寄附者の声



・ 伝統文化を守ることは大変重要だと思います。どうか先人たちの祭りに込めた願いを絶やさないように守ってください。応援しています。

住民の声



・ 5年に一度の御船祭の臨時開催を見ることができて、とても得をした気分です。今後も盛り上げていきましょう。



▶ 栃木県那須烏山市

伝統と誇りを受け継ぐ まちづくり

那須烏山市では、毎年7月に日本一の移動式野外劇と言われ、450年以上もの歴史を持つ「山あげ祭」が行われます。その祭りの核となる「烏山の山あげ行事」は、平成28年には全国32の祭礼行事とともにユネスコ無形文化遺産に登録され、今後の活動にも期待が寄せられています。

一方で、祭りを運営する後継者や踊り子・常磐津の担い手不足が課題となっています。そのため、本市では、この伝統と誇りある「山あげ祭」を守り、後世に遺していくために、ふるさと納税の一部を

「烏山山あげ保存会」へ助成し、伝統芸能や地域文化の伝承、担い手の育成を側面的に支援しています。

寄附者には、お礼状を贈る際にパンフレットを同封し、「山あげ祭」について周知しています。



野外で大迫力の舞台を背に本格的な歌舞伎劇が披露されます



山あげ祭の舞台で踊る踊り子の練習風景

注力した点や工夫した点

ユネスコ無形文化遺産に登録されたことを機に、市のウェブサイト内の特設サイトを更に充実させるなど「山あげ祭」の知名度の向上に努めています。

Check

取組の効果

ふるさと納税の一部を「山あげ祭」の運営費に充てることで、情報誌や特設サイトを活用した情報発信を強化することが出来ました。

また、初めての試みとして、「山あげ祭」当日に特設ステージにおいて県内ラジオ局の特別番組を生放送し、会場の様子を市外に広く伝えました。

こうしたことにより、平成29年の来場者は昨年より2万人増の12万人となり、大いに賑わいを見せました。



山あげ祭当日のラジオの生放送の様子



寄附者の方にお送りしているパンフレット

寄附者の声



・幼いころから何度も訪れている「山あげ祭」の今後の発展にぜひ協力したいと思います。

住民の声



・ふるさと納税のおかげで、課題であったイートスペースの拡充、駐車場の確保など、おもてなし対策を充実することができました。(山あげ祭実行委員会委員長)

▶▶石川県輪島市

輪島塗職人による熊本地震被災
陶器再生プロジェクト

震災の記憶が風化されないよう、「ものづくり」を通じた「人」の交流を目的として、熊本地震で被害を受けた作品の陶片と輪島塗漆器を組み合わせ、新しい器へと生まれ変わらせる「被災陶器再生プロジェクト」を実施することとしました。

過去に震災被害のあった輪島市と熊本県の陶芸家や職人が「金継ぎ」と呼ばれる技法で再生された器

に復興の想いを託しています。

これらの作品の制作費用、作品完成後に開催予定の展示会やお茶会の開催費用をクラウドファンディング型のふるさと納税で募集しました。

寄附者に対しては、陶器の修復作業に用いる「金継ぎ」の技術を実際に知っていただくため、東京での体験イベントを実施しました。



熊本地震で割れた陶器



五陶輪を製作する輪島塗職人



五陶輪のシンボル作品「繕桜」

注力した点や
工夫した点

割れたら価値を失う陶器と、破損しても修復して使う漆器の相反する伝統文化の技を持つ両地域の職人たちの技術交流により、「未来のものづくり」の可能性を提示したいと考えています。

Check

取組の効果

作品制作の過程で、輪島塗の職人と熊本の陶芸家が互いに両地域を訪れて交流し、それぞれの技術について意見交換を行っており、こうした活動を通じて新たなものづくりにつなげていきます。

また、ふるさと納税で得られた資金は、専用ウェブサイトの開設費用、写真や映像の作

成費用に充当し、本事業の一連の活動内容を広くPRすることができました。



「金継ぎ」の技術を知ってもらうための体験イベント



本事業の実施により生まれた交流イベント

寄附者の声



・被災した熊本の職人だけでなく、他の地域の伝統工芸の職人へも希望を与えてくれる素敵なプロジェクトだと思います。

住民の声



・この事業を契機に、お互いの伝統工芸の更なる発展と、熊本と輪島の交流が継続することを期待しています。



▶長野県長野市

松代城の復元・戸隠の町並みや 伝統を守りたい

長野市では、ふるさと納税の使い途を寄附者に伝え、取組の趣旨に賛同していただくことを大切にしており、ふるさと納税の募集にあたり、複数の具体的な使い途の中から寄附先を選択できるようにしています。

具体的には、松代城の本来の姿を取り戻すための復元プロジェクト、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された戸隠神社の門前町における景観を維持向上するための住宅等の修理・修景、後継者不足に悩む伝統的工芸品「戸隠竹細工」の技術を未来へ

繋ぐための人材育成等の実施に必要な財源を募っています。

寄附者には、非公開部分を見学できる松代城の特別案内、戸隠竹細工の森保全活動体験会への招待などを行っています。



松代城特別案内

注力した点や工夫した点

寄附者が選択した事業への理解を深めていただくため、長野市に来て実際に体験できるように、関係施設の入場券、職人が行う森の保全活動に参加できる仕組みなどを提供しています。

Check

取組の効果

松代藩文化施設の共通入場券でもある「通行手形」を送付しており、自らが支援した事業を一目見ようと、市へお越しいただく寄附者が増えています。

また、寄附者が戸隠竹細工の森保全活動体験会に参加することで、竹細工職人との間で継続的なつながりがうまれており、将来的には竹細工職人の後継者が誕生することを期待しています。さらに、この取組をきつ

けに、戸隠地区の住民にとって地域一体となつてまちづくりを進める機運の醸成にもつながっています。



寄附者へ送付する壱口城主証、壱口城主特別入場券、通行手形等



戸隠竹細工の森保全活動体験会

寄附者の声



・歴史ある松代の城下町を守っていただきたいと思います。

住民の声



・住民と行政に加え、まちづくりを外部からの協力（ふるさと納税）を得ながら進められる仕組みですばらしいと思います。

▶▶ 岐阜県郡上市

ふるさと納税で
日本三大盆踊の共演を実現

郡上市は、400年以上の歴史を誇る国重要無形民俗文化財「郡上おどり」をはじめ、「白鳥の拝殿踊り」、「白鳥おどり」の3つの盆踊りが存在する日本一の盆踊りのまちです。

市内における盆おどりや民謡といった伝統文化の継承については、後継者の育成が課題となっています。

そこで、平成29年には、日本三大盆踊りである「阿波おどり（徳島市）」「西馬音内盆踊り（秋田県羽後町）」を招聘し、共演イベントを実施することとし、費用の一部をふるさと納税で募

集しました。

このイベントをきっかけに、市内における伝統文化の重要性について市民意識の醸成を図り、後継者が一人でも増えるよう取り組んでいます。

寄附者に対しては、活用実績の報告書とともに観光パンフレットを送付しています。



日本三大盆踊り共演イベント（郡上おどり）



日本三大盆踊り共演イベント（西馬音内盆踊り）

注力した点や
工夫した点

「郡上おどり」のイベントを東京と京都で開催し、市外のファンの拡大に努めており、日本三大盆踊りの共演イベントに市外からも多くのファンが駆けつけました。

Check

取組の効果

日本三大盆踊りの共演イベントを実施したことで、郡上の踊り文化だけでなく、日本の伝統文化である盆踊りについて市民や来訪者に伝えることができました。

「郡上おどり保存会」ジュニアクラブへの参加者も増えており、引き続き後継者の育成を実施します。

イベントは新聞等の報道機関に取り上げられたことで、市外の方々にも郡上市や「郡上おどり」



京都で開催した郡上踊イベントの様子



東京で開催した郡上踊イベントの様子

を広く知っていただくことができました。また、イベントを通じて、市外の方々との交流が広がり、市の魅力を情報発信する機会が増えました。「郡上おどり」をきっかけに、郡上市へ移住される方もおり、人口拡大に寄与しています。

寄附者の声

・子供の頃、夏休みに「郡上おどり」を踊ったことが懐かしく感じます。

住民の声

・「郡上おどり」だけでなく、なかなか見ることのない「阿波おどり」と「西馬音内盆踊り」を見られる貴重な機会となりました。



▶愛知県刈谷市

刈谷城を復元して歴史ロマン溢れるまちづくりを目指す

市民のシンボルでもある亀城公園は、築城から約500年経った刈谷城の本丸・二の丸部分を中心とした城趾公園です。

刈谷市では、ふるさと刈谷への愛着や誇りを深め、未来を担う子ども達に刈谷の歴史を継承するため、

刈谷城の復元、歴史博物館の整備を行うこととし、これらの事業費について、ふるさと納税を募ることにしました。募集にあたり、刈谷城にまつわる歴史上の人物の紹介など刈谷城が歩んできた歴史や刈谷城の歴史的価値を市のウェブサイ

トやパンフレットで情報発信し、寄附者に市の魅力を知ってもらうきっかけとしています。

また、寄附者に対しては、刈谷城の復元や歴史博物館の整備が完了した際に、記念イベントの開催案内の送付等を検討しています。



亀城公園



城絵図

注力した点や工夫した点

取組を広くPRするため、一年を通じて公園で開催される桜祭りや各種イベントにブースを設けて、来場された方にふるさと納税を呼びかけました。

Check

取組の効果

ふるさと納税を活用することで、市内外に事業をPRすることができ、全国から事業に対する応援の声が寄せられています。

その結果、歴史博物館の整備は、順調に進んでいます。

まちの歴史に関する市民講座や子どもたちが参加する甲冑行

列の催しが行われるなどを通じて、市民のまちの歴史に対する意識が向上しており、ふるさと納税の取組もこうした機運醸成に一役買っています。



歴史博物館完成イメージ



刈谷城の復元イメージ

寄附者の声



・刈谷城の完成を楽しみにしています。

住民の声



・刈谷城は歴史的価値の高いお城です。ふるさと納税による事業の早期実現を期待しています。

▶▶ 奈良県王寺町

聖徳太子ゆかりの文化財 「達磨寺方丈」修理プロジェクト

王寺町の観光名所である聖徳太子のゆかりの達磨寺は、本堂のほかに「方丈」という建物があり、奈良県指定文化財に指定されています。

「達磨寺方丈」は、建築されてから約 350 年が経ちますが、今まで一度も大きな修理が行われてきませんでした。倒壊を防ぐために、「達磨寺方丈」の修復費用をふるさと納税で募集することとしました。

修復工事の進捗状況については、町

のウェブサイトで逐次発信するほか、寄附者に対しては、現場での説明会や完成イベントへの招待など、地域の観光資源を活かした交流が図られるよう取り組んでいます。



支柱で補強された「達磨寺方丈」



地元の商店主たちが、イベントで訪れた観光客をおもてなし

注力した点や工夫した点

寄附者に対しては、「一度訪れてみたい」と感じていただけるよう、達磨寺近隣の飲食店や商店も紹介したほか、ふるさと納税の募集には、御当地キャラクターの「雪丸」にも活躍してもらいました。

Check

取組の効果

ふるさと納税の取組を通じて、町や達磨寺が注目されテレビ番組や新聞などで多く取り上げられたこともあり、達磨寺の認知度が上がった結果、

達磨寺への来訪者数が平成 26 年度は約 2,700 人でしたが、平成 28 年度には約 3 倍に増加しました。

観光客数が増えることにより、地元の飲食店や商店が賑わい、地域の活性化につながっています。

また、町内においても達磨寺への注目が高まったことにより、地域の観光ボランティア活動がより活発になりました。



御当地キャラクター「雪丸」



「茅の輪」をくぐる参詣者

寄附者の声



- ・ぜひ一度訪れてみたいです。
- ・貴重な文化財の保護にお役立てください。

住民の声



- ・ふるさと納税の募集をきっかけに王寺町を多くの方に知っていただくことが出来ました。



▶ 島根県江津市

地域における 伝統芸能、文化の伝承

江津市には、大元神楽といった伝統芸能や、勝地半紙といった伝統文化が多数存在しており、これらを守り、後世に伝えていくための事業をふるさと納税の使い途として選択できるようにしています。

主な事業内容としては、国の重要無形民俗文化財に指定されている大元神楽の歴史や伝統を広く伝えるため、大元神楽伝承館を運営しています。館内には舞殿が設けられているほか、神楽面、御幣などの様々な資料を展示しています。

また、勝地半紙は市指定文化財に指定されているものの、需要の減少などにより深刻な後継者難にあ

ります。そのため、技術の保存、普及等の活動に対し助成を行い、後継者の育成を進めています。

毎年度の取組内容については、市のウェブサイトや広報誌に掲載することで、寄附者や市民へ広く周知を図りました。



大元神楽伝承館舞殿



大元神楽伝承館内の展示物
(神楽面や衣装など)

注力した点や 工夫した点

ふるさと納税の募集にあたっては、勝地半紙の生産者が抱える課題として、技術継承のための製造機材の更新が必要なことについて分かりやすく示しました。

Check

取組の効果

ふるさと納税を活用し、魅力ある展示となるよう、計画的に大元神楽伝承館に展示している大元神楽の道具などの取替や模様替えを行っています。

近く6年に一度の大元神楽が予定されていることから、ふるさと納税をきっかけにまちを訪れる方も含め、交流人口の拡大が期待されます。

勝地半紙については、平成28年度は、製造施設の整備や紙すき体験の補助を実施しました。約50年前から使われている楮を蒸し上げるための炉の移設・修復作業は、報道各社にも取り上げら



勝地半紙の原料となる楮に
甑(こしき)を被せて蒸す



勝地半紙 紙漉作業

れるなど伝統的な技術の継承に向けた普及啓発活動が広がっており、後継者育成につながることを期待しています。

寄附者の声



・神楽などの伝統文化を継承していくのは大変なことです、少しでもお役にたていただければと思います。

住民の声



・和紙の魅力が多くの方に伝わるよう伝統的な技法を守り、今後もこだわりをもって継承していきます。(生産者)

▶▶ 広島県広島市

「平和への思いを共有するまち」
の実現のために

広島市は、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴えていくとともに、廃墟から復興した平和と希望の象徴であり続ける必要があります。そのためには、広島を訪れる世界の人々に対し、被爆者の体験や平和への思いなどの被爆の実相を、守り、広め、伝えていくことが重要です。

広島市では、平和の推進などを目的としていただいたふるさと納税を「広島市原爆ドーム保存事業等基金」に積み立て、原爆ドーム保存事業のほか、被爆建物・被爆樹木等の保存・継承、

被爆資料の劣化防止、国内外の青少年の招へいなどを行っています。また、広島平和記念資料館の図録や、平和記念公園に捧げられた折り鶴を再生して作られた名刺やメモ帳、絵はがきなどを寄附者に届けています。



1996（平成8）年12月、
世界遺産に登録された原爆ドーム



平和記念公園の「原爆の子の像」に
捧げられた折り鶴を再生した名刺

注力した点や
工夫した点

折り鶴を捧げた人々の平和を願う思いを、折り鶴から再生製品へ形を変えて寄附者へ届けることで、その思いが共有・継承されていくことを願っています。

Check

取組の効果

ふるさと納税により、直近では、被爆建物である広島市水道資料館の耐震改修、被爆樹木のモニタリング調査、樹勢回復措置の実施のほか、市内の被爆建物や被爆樹木の見学ツアーを開催することができました。また、被爆前の広島を撮影した映像をデジタル化し、インターネット上で公開することで、原爆による被害の大きさを視覚的に分かりやすくする取組などを通じて広く周知を行いました。



被爆樹木の樹勢回復事業



平和首長会議加盟都市の青少年交流

さらに、世界の平和首長会議加盟都市の若手職員等をインターンとして市の平和行政に従事してもらうとともに、国内外の青少年や自治体職員が、被爆者の体験や平和への思いを共に学び、交流する機会を創出しました。

寄附者の声



・広島を訪れる国内外からの沢山のの方に、平和が一番幸せだと改めて発信し続けて欲しいです。

住民の声



・折り鶴再生製品の製作には、障がい者の方も作業に加わっており、全国の皆様にお送りできることを励みに作業にあたっています。（事業者）



▶群馬県前橋市

タイガーマスク運動 支援プロジェクト

児童養護施設で育つ子どもが施設で暮らせるのは原則18歳までであり、退所を控えた子どもは親等の援助が望めずに大きな不安を抱えています。

この社会課題に対し自立を経済的に支援するため、平成22年に全国に巻き起こったタイガーマスク運動の最初の行動者である河村正剛氏（市内在住）とともに、全国の賛同者へ支援を求め、ふるさと納税を活用して社会全体で退所後の子どもを支えるプロジェクトを平成29年3月に開始しました。

具体的には、新生活準備支度金として15万円を支給するとともに、自動車運転免許取得の際の自己負担額を市内教習所との官民連携によりゼロとします。

寄附者に対しては、パンフレットを送付し、事業の意義や支援を受けた子どもたちの声を紹介しています。



社会的養護を必要とする子どもは全国に約3万5000人



不足額は自らアルバイトをして高校入学時から準備する実態も

注力した点や工夫した点

支援内容の検討にあたり、施設入所者はどのようなことに困っているのか実態を正確に把握することを第一に考え、関係者で意見交換会を実施しました。

Check

取組の効果

平成29年3月に児童養護施設を退所する7名に対し新生活準備支度金の支給を行いました。

多くの報道機関で取り扱われ、家庭環境に恵まれずに社会的養護を受けている子どもが全国各地にたくさんいるという社会課題に対し多くの方が想いを寄せるとともに、ふるさと納税による社会貢献の仕組みを広く周知できる機会となりました。

さらに、自動車運転免許取得

の際の自己負担額ゼロについては、市内企業のCSR活動を組み合わせた支援であり、新しい課題解決方式として注目されました。



パンフレットで事業の意義や支援を受けた子どもたちの声を紹介



児童養護施設入所児童が暮らす部屋の様子

寄附者の声



- すべて子ども達が幸せな未来を歩めますよう祈っています。
- 全国に取組が広がってほしいと思います。

住民の声



- 支援したいと考える方がいることを聞いてありがたいと思いました。後輩たちのために、これからも支援をお願いします。(支援を受けた子ども)

▶東京都文京区

命をつなぐ「こども宅食」
でこどもと家族を救いたい

文京区では、区内の子どもがいる生活困窮世帯に対して、クラウドファンディング型のふるさと納税で資金を募集し、フードバンク等を活用した食品を自宅に配送します。そして、これをきっかけに継続して必要な支援の状況を把握し、各家庭をソーシャルワークや困りごと相談などにつなげ、社会からの孤立を防いでいきます。

また、事業実施に当たり、文京区とNPO団体等が共同体を形成し、

各主体がイコールパートナーシップの下、各々の強みを最大限に活かしながら業務を進めています。

事業の進捗状況はウェブサイト等でお知らせするとともに、公表に同意いただいた寄附者の名前を公表しています。



記者会見の様子



当初の目標額を大きく超える寄附

注力した点や工夫した点

行政とNPO団体等の垣根を乗り越え、NPO団体等の提案する業務内容を積極的に取り入れ、事業に遅れが生じないように、迅速に庁内関係部署との調整を行いました。

Check

取組の効果

平成29年7月の報道発表後、約1ヶ月で当初目標寄附額に到達しました。ふるさと納税の使い途を明確化し、返礼品がなくとも多くの寄附が集まったことについて、テレビや新聞等多くの報道機関に取り上げられています。



ボランティアによる食品パッケージ作業



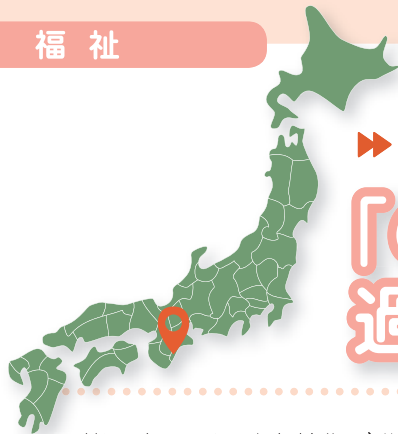
同封するクリスマスメッセージカードの作成

寄附者の声

・この取組が成功し、全国に広がって行くことに期待しています。

住民の声

・このような形で手を差し伸べていただき感謝しています。
・皆様の暖かいご支援で子どもたちの食生活が救われます。(利用者)



▶▶ 三重県熊野市

「のってこらい」 過疎地の交通手段を確保

熊野市は、過疎高齢化が進み、高齢者の通院や買い物などの交通手段の確保が課題となっています。山あいに位置し、公共交通が十分でない五郷（いさと）町では、地域住民が主体であるNPO法人「のってこらい」（地元で「乗っていこうよ」の意味）が、営利目的とはならない範囲での自家用自動車運送を開始しました。

平成28年度には、五郷町と同様の課題を抱える飛鳥町への運行範囲の拡大に伴い車両の追加が必要となった

ため、ふるさと納税を募り、事業内容や同法人の取組を発信しました。

寄附者へお礼の手紙を送付するとともに、運行の様子をウェブサイト等に公開し、全国の支援が熊野の地で多いに役立っていることを伝えています。



高齢者の交通手段としてののってこらいは地域になくてはならない乗り物



ふるさと納税によって車両が購入できたことを利用者に説明

注力した点や工夫した点

公共交通空白地の状況や事業の必要性など具体的な取組内容が広く周知され、寄附者の共感を得ることができました。

Check

取組の効果

ふるさと納税により、新たな車両を配備することができ、より広範な運送サービスが可能となりました。

ふるさと納税を募集することにより、市の取組を広く全国の皆さんにPRできただけでなく、ふるさと納税をしていただいた方から温かい応

援コメントが多く寄せられたことで、運営に携わる方の活動に対するモチベーション向上にもつながっています。



高齢者が日常生活に必要な商店や診療所への送迎



のってこらいは送迎だけではなく、利用者の見守りも

寄附者の声



・過疎地での高齢者の移動の問題は今後ますます大きくなると思います。取組が熊野から全国に広がるように、陰ながら応援しております。

住民の声



・車が無いと生活が成り立たないので、こうした試みは素晴らしいと思います。

▶▶兵庫県

「小児筋電義手バンク」
の設立

筋肉が収縮するときには生じる微量の筋電位を利用して、本人の意思で指を動かせる「筋電義手」は、約150万円と高額ですが、訓練用のものは公費負担制度の適用がありません。また、子どもは成長に併せて義手の交換が必要なおうえ、訓練に対応した医療機関も限られています。

兵庫県立リハビリテーション中央病院は、子どもの「筋電義手」の訓練に対応した数少ない施設の一つであり、今後、さらに多くの子どもに対応できるよう、ふるさと納税を財源として訓練用義手を貸し出す「小児筋電義

手バンク」を設立しました。寄附者に対し、訓練用義手の貸与の実績、貸与された家族のメッセージ、訓練の様などウェブサイト公表するなど、取組の内容や意義を分かりやすく紹介するとともに、気持ちを含めたお礼状を送付しています。



子ども用の筋電義手



ひとりでシャボン玉ができるようになりました

注力した点や工夫した点

兵庫県のウェブサイト等に「小児筋電義手バンク」の情報を掲載するほか、病院内でのチラシの掲示や社会福祉事業団のイベントの際にチラシの配布により、取組を周知しています。

Check

取組の効果

「小児筋電義手バンク」設立後、全国から温かいメッセージとともに多数のふるさと納税が寄せられ、平成27年3月から平成29年12月までに「筋電義手」の訓練を必要とする44名の子どもたちに訓練用の筋電義手を無償で貸与することができました。また、この取組が新聞やテレビ等に取り上げられる機会が増え、小児筋電義手の必要性が社会においても認知されつつあると感じています。



乗り物にも乗れるようになりました



ビーズを糸に通してブレスレットを作ることができました

今後、訓練施設を増やしていくことを検討しており、協定を結んだ連携先の病院において、筋電義手を扱う臨床技師の人材育成や筋電義手の貸出を行っていきます。

寄附者の声



・支援の輪が広がり少しでも早く必要としている子どもたちに届けられますように。

住民の声



・義手の貸与者に選ばれた時は大変驚き、喜んだことを覚えております。筋電義手を通じて、いろんな方々のお力、また、人の温かさを痛感いたしました。(貸与者の家族)



▶青森県むつ市

ジオパークの推進と みまもりサービスでまちを元気に

下北半島が有する自然遺産、文化遺産の重要性を見つめ直し、教育や観光促進に活用する「下北ジオパーク」の取組をさらに推進していくため、むつ市では周知広報活動や市内小学校での体験学習等に必要なる費用をふるさと納税で募集しています。取組を通じて「下北」の魅力在全国に発信することで、交流人口を増加させ、地域発展を目指します。

また、むつ市では、市内の一人暮らし高齢者が増加していることを踏まえ、日本郵便株式会社と連携し

「みまもり訪問サービス」を寄附者に対して提供しています。郵便局社員などがふるさとで暮らす高齢者を月1回程度訪問し、高齢者の体調や食事の状況、日常生活の支障など10項目について、寄附者に定期的にお知らせする仕組みです。



下北半島 脇野沢



みまもり訪問サービスによる自宅訪問

注力した点や工夫した点

新たに導入することとした「みまもり訪問サービス」を広く周知するため、市のウェブサイトや広報紙に掲載し、市内外に向けて積極的に情報発信しています。

Check 取組の効果

「下北ジオパーク」の推進については、学習・研究・活動発表会を5市町村など関係団体合同で開催し、児童が各地の見所や地域の歴史・文化との関わりについての学習成果を披露するなど、具体的な活動が広がっています。

「みまもり訪問サービス」については、ふるさと納税をきっかけとして、離れて暮らす家族と高齢者をつなげる効果が期待されています。市で

は、こうしたつながりを発展させ、高齢者が暮らす地域への関心を高めていただけるよう取り組んでいきます。



下北ジオパークの魅力を伝える重要なガイドの養成講座



下北郡内の児童生徒による地域学習等の発表会

寄附者の声



・「みまもり訪問サービス」の様な取組が登場するのを待っていました。

住民の声



・ふるさと納税を活用して学校にジオパーク関連の図書を購入していただきました。児童にそのことを紹介すると、今まで以上に図書に興味を持つようになりました。



▶▶ 岩手県

東日本大震災からの復興に向けた鉄道の活性化

岩手県の三陸沿岸地域は、豊かな自然環境に恵まれた地域でしたが、東日本大震災の津波を機に、住民の生活、美しい景観は一変しました。

復興に向けた取組を知ってもらい、賑やかな街並みや美しい景観を取り戻し、全国から岩手に訪れてもらうため、三陸鉄道の支援やラグビーワールドカップ2019™を契機とした観光客受入れの基盤整備などの事業についてふるさと納税を募集しました。三陸鉄道の老朽化しているレールやトンネル、橋りょうなどの改修、各種企画列

車造成などに活用しています。

三陸鉄道で発行している「会報」等を定期的に送付したり、「三鉄オーナーズクラブ会員証」を贈呈したり、三陸鉄道の駅舎へ希望者の氏名を掲出するなど、寄附者と三陸沿岸地域とが継続的につながり、交流の輪が拡大されるよう努めています。



吉浜湾（大船渡市三陸町）を通過する三陸鉄道の列車



三鉄オーナーズクラブ会員証、プレート（被災した鉄道レールを活用）

注力した点や工夫した点

東日本大震災の津波からの復興に関する県の取組を全国の皆様に知っていただいた上で共感が得られるよう、具体的な事業を掲げてふるさと納税を募っています。

Check

取組の効果

ふるさと納税を活用することにより、生活路線、観光路線として鉄道の安心安全な運行に必要な整備を実施することができました。

寄附者に復興状況等を知っていただくことで、被災地や三陸鉄道を継続的に応援して下さる方が増えています。

また、寄附者が三陸鉄道に乗車するために訪れること

で、三陸鉄道への興味関心の高まりや、観光・交流人口の拡大に寄与しています。



三陸鉄道の車両運転士体験の様子



「笑顔」と「希望」を載せ、平成26年4月の全線運行再開時の様子

寄附者の声



・三陸鉄道の全線運行再開に勇気づけられたので、寄附しました。三陸の復興を応援しています。

住民の声



・地域の皆様の足を確保するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化にも貢献できるよう、社員一丸となって頑張っています。（三陸鉄道社員）



▶千葉県南房総市

全国の食卓へ自慢の あわびとさざえをお届け

千葉県千倉地域のアワビの漁獲高は、最盛期の昭和42年から現在まで減少の一途をたどっています。これに対し南房総市は、「つくり育てる漁業」を推進するため、漁業協同組合に補助し、あわびの稚貝放流事業、さざえの放流事業を行っています。

これらの放流事業を充実させ、全国の食卓に南房総の豊かな海でとれるあわび、さざえを提供できるよう、事業の財源をクラウドファンディング型のふるさと納税で募りました。募集にあたっては、漁

業を取り巻く状況、後継者問題を分かりやすく示すとともに、「水産資源、産業を未来に繋げる」をテーマに寄附者の共感を集めました。

また、寄附者を稚貝育成施設の見学に招待するなど、寄附者とのつながりを大切にしています。



稚貝放流の様子



アワビの稚貝

注力した点や工夫した点

事業実施団体である漁協に現状の聞き取り調査を行うことで、地域が抱える課題を細部まで掘り起こすことができました。

Check

取組の効果

東安房漁業協同組合が、長年の試行錯誤の末確立した独自のアワビの稚貝の育成法「3年輪採方式」*が内閣総理大臣賞を受賞するなど、取組がメディア等に取り上げられたことにより、漁業従事者や、水産加工販売事業者にとっても、さらなる産業振興への機運向上に繋がりました。

また、寄附者に稚貝育成施設を見学していただくことで、「つくり育てる漁業」についての理解が広がり、継続的な支援にも

つながっています。

*3カ所に漁場を分け、1年に1カ所ずつアワビの稚貝を放流し、3年間の育成期間を経て収穫・放流を繰り返す育成法



コンクリートの板で造成した漁礁に張り付くアワビ



稚貝育成施設見学

寄附者の声



・南房総の豊かな海を守り育てて、次の世代にも受け継いでいけるよう頑張ってください。

住民の声



・南房総で育っている子どもたちに以前のような活気ある漁師町の姿を見せたいです。



▶▶ 富山県立山町

企業版ふるさと納税との連携による若者のUターン

立山町では、高校や大学卒業後の若者のUターンを促すため、「奨学金返済応援補助金制度」を設け、卒業後に町に住む場合には、教育ローンや奨学金の

の絆をより深めるため、「たてやまサポータークラブ」を創設し、加入した寄附者に対してメールマガジンを毎月配信しています。

返済額の一部を最長10年間補助することとしました。そして、この補助金の財源をふるさと納税で募集しています。

また、企業版ふるさと納税の事業にも認定されており、高校や大学卒業後の若者が企業版ふるさと納税を行った企業に就職した場合、補助金額を増額する仕組みとしています。

寄附者に対しては、制度の利用状況を発信するほか、寄附者と



奨学金返済応援補助金制度の概要図



毎月、町広報紙の内容をピックアップして掲載

注力した点や工夫した点

立山町外の人に少しでも町のことを知ってもらうため、メールマガジンには町広報紙記事の抜粋や、立山黒部アルペンルートなどの観光情報を掲載しました。

Check

取組みの効果

「奨学金返済応援補助金制度」を活用し、まちに戻ってくる若者が増えることを期待しています。

は、立山町をより多くの人に知ってもらうための情報発信の有効なツールとなっています。

「たてやまサポータークラブ」は、平成29年9月末現在の会員数は約200名となっており、ふるさと納税をきっかけとした町のファンの増加につながっています。



立山黒部アルペンルート



中学校の高校説明会で奨学金返済応援補助金制度について周知

寄附者の声



- ・立山町出身です。立山町の学生のために寄附金を役立ててください。
- ・たてやまサポータークラブのメールマガジンを楽しみにしています。

住民の声



- ・私も大学進学費用の工面に苦労したため、若者の就学支援を行う制度に賛同します。



▶京都府綾部市

ふるさと納税で 水源の里をもっと元気に

綾部市では、過疎・高齢化が進み、冠婚葬祭、農業用水や道路の維持管理といった共同生活の維持が困難な状況に直面している集落を「水源の里」と位置付け、これらの集落の活性化を図るための活動に取り組んでいます。

さらなる集落の活性化のため、ふるさと納税を募集し、地元が中心となって開発した特産品のPRや生産拡大、新商品の開発に必要な備品の購入、販売拠点の整備費用に充当しました。

寄附者に対しては、これらの活動報告等をお届けするとともに、「水源の里」についての理解を深めていただき、継続的な支援に繋がるよう取り組んでいます。



古屋集落。「とちの実拾い」体験
都市部からの参加者も多い



老富集落。特産の「とち餅」
ふるさと納税によって購入した製造機械により生産

注力した点や
工夫した点

豊かな自然と地域資源を活かし、地域・行政・ボランティアが連携することで、小さな集落が大きな成果を上げることができました。

Check

取組の効果

ふるさと納税で得られた資金により、特産品の製造に必要な真空パック機、保管庫、乾燥機などの備品を購入し、生産量の増加だけでなく新商品の開発や販路拡大に生産者が積極的に取り組めるようになりました。

また、平成28年度は農業体験事業を実施し、寄附者を含めた延べ1,571人の参加者が地元住民と交流を深めました。今後、ふるさと納税をき

かけとしたさらなる交流人口の増加が図られるよう、交流拠点となる広場の整備等を行うこととしています。



瀬尾谷集落の特産「黒瓜の粕漬け」
約10ヶ月熟成させて商品化



市が年1回開催する空き屋見学ツアー

寄附者の声



・豊かな自然を守り、その自然を活かして発展してほしいと思います。

住民の声



・地域の皆と協力して取り組む特産品づくりは住民の元気の源です。



▶▶兵庫県神戸市

ITを活用した 起業家(スタートアップ)の支援

神戸市では「起業しやすいまち・神戸」の実現、また、神戸経済の持続的な成長を目指し、ITを活用した国内外の起業家を支援する取組を進めています。

中でも、「スタートアップオフィス事業」は、選ばれた起業家に対し、資金調達を目的とした投資家向け成果発表会の開催や発表に向けたビジネスプランの策定指導等を実施するとともに、起業家にとってのさらなる資金調達の機会となるよう、クラウドファンディング型のふるさと納税で起業に必要な費用の一部を募ります。

寄附者の共感を集めやすくするため、各起業家の事業を特定してふるさと納税できる仕組みとしました。

起業家の工夫により寄附者を招いた事業報告イベントを開催するなど寄附者とのつながりを大切にしたい取組も行っています。



神戸スタートアップオフィスで実施するアクセラレーションプログラムの様子



投資家向け成果発表会「デモデイ」にてビジネスプランを発表

募集に当たっては、

注力した点や工夫した点

効果的な広報を行うためにSNSへの広告を活用しました。また、募集しているウェブサイトにおいて寄附者が起業家に対するメッセージを書き込める機能を追加しました。

Check

取組の効果

「スタートアップオフィス事業」に参加した10チームのうち8チームが資金調達することができました。例えば、訪日インバウンド旅行客向けの荷物預かり、配送サービスプロジェクトでは、サービス拡大のためのシステム開発費用や広告宣伝費用に対し、寄附者の支援を得ることができました。

クラウドファンディング型のふるさと納税で募集するこ

とで、事業化前から全国の寄附者に事業内容を知ってもらうことができるため、事業のPR効果も期待されています。



自然栽培農家と消費者間のコミュニケーション及び販売サービス



インバウンド旅行者を対象とした、スーツケースの一時保管サービス

寄附者の声



- ・世界へと羽ばたく若者達を勇気づけてくれる神戸市のイノベーションを応援しています。
- ・地元神戸にもベンチャー文化が根付くことを応援します。

住民の声



- ・寄附者の方のお気持ちに応えるため、これからも全力で取り組みます。(起業家)
- ・1日も早く次のステップに進められるよう、頑張ります。(起業家)



▶▶岡山県玉野市

ののちゃんの 魅力全開プロジェクト

玉野市出身の漫画家「いしいひさいち氏」の4コマ漫画の主人公である「ののちゃん」は、玉野市のイメージキャラクターとして、幼稚園や小学校でのあいさつ運動や市の知名度向上のためのPR活動で活躍しています。

これまでの活動により衣装が傷んだため、ふるさと納税を活用してそれらの更新をはじめとするシティセールス活動費用を募りました。報道等で取り上げられたこともあり、全国からご支援をいただきました。

今後は、寄附者へシティセールス活動内容の報告や、ののちゃんの着ぐるみ完成お披露目会へのご招待など、寄附者との繋がりを継続できるよう取り組んでいきます。



©いしい ひさいち

長年使用して、シワが目立つ顔



©いしい ひさいち

イベントでの活動

注力した点や工夫した点

「シワをとりたい」、「リフレッシュ」といった小学3年生の「ののちゃん」には馴染まない興味をひくキャッチコピーで寄附者や報道機関の注目を集める工夫をしました。

Check

取組の効果

ふるさと納税で得られた資金により、新しい着ぐるみを更新することができるようになりました。今後もシティセールス活動を続けながら、寄附者への情報発信を継続することによって、ののちゃんと玉野市のファンになってほしいと思っています。

また、クラウドファンディングの取組が広く報道で紹介されたことで、玉野市の知名度を向上する機会

を創出しました。ののちゃんファンが、ののちゃんが玉野市のイメージキャラクターであることを知り、本市を訪れるきっかけにつながっています。



©いしい ひさいち

玉野市男性職員アイドルグループとイベントでの共演



©いしい ひさいち

幼稚園や保育園、小学校、中学校での朝のあいさつ運動に参加

寄附者の声



・綺麗になったののちゃんに会いに、また玉野市へ行きたいです！

住民の声



・全国の皆さんがののちゃんの応援をしてくれてとても嬉しいです。



▶山口県宇部市

テクノロジー×アートで 若者の地元定着を目指す

多くの学生が就職に伴い、地域外に流出する中で、若者の地元定着を促進するためには、若者に地域の魅力を知ってもらう必要があります。宇部市では、山口大学工学部と宇部高等専門学校と連携して、世界的な専門家等を講師として招き、ICT分野や先進テクノロジー分野での人材育成を図るため、「テクノロジー×アート」チャレンジ講座と題して、学生や社会人を対象とした講座を設けています。この講座の内容をより充実させる

ため、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用して、費用を募ることとしました。

寄附者に対しては、実績報告書とともに、講座の一環としてときわ公園で開催されたデジタルアート作品の発表イベントの招待券を送付しました。



「ときわ公園テクノロジー×アート人材育成プロジェクト」講座風景



プロジェクト参加者による作品制作

注力した点や工夫した点

ふるさと納税の募集にあたっては、宇部市の先進的な取組を広くPRするため、新進気鋭のデジタルアート集団とコラボレーションした作品の動画を掲載しました。

Check

取組の効果

最近の取組では、「ときわ公園テクノロジー×アート人材育成プロジェクト」全15回の講座運営費用の一部としてふるさと納税を活用しました。起業の実学講座やデジタルアート作品の制作を通じて、参加者のスキルアップを図るとともに、起業・創業意欲の喚起、学生と地元企業の交流を促進しました。

また、ときわ公園で開催されたデジタルアート作品の発表イベントでは、約5万人が訪れるなど、交流人口の増加にも効果が表れています。



プロジェクト参加者が制作した作品



「チームラボ 宇部市ときわ公園呼応する森」デジタルアート

寄附者の声



・地域の活性化につながるイベントなので、これからも継続してほしいです。

住民の声



・ときわ公園がとても良くなっており、チームラボとのコラボも楽しめました。



▶愛媛県西予市

古民家カフェがつなく、 人と人

西予市中心部の重要伝統的建造物群保存地区は、地域住民の憩いの場でもあり、昔の賑わいを取り戻すため、古民家を改修し、新たな地域コミュニティの場として、Café & Barをオープンすることとしました。

地域おこし協力隊の隊員の起業支援として、起業に係る経費をクラウドファンディング型のふるさと納税で募集しました。募集にあたっては、まちの活性化や起業に対する想いを伝える動画を制作し、様々な報道機関での広報を

行ったところ、多くの

方の共感を呼び、心温まる支援をいただくとともに、寄附者からはオープン後に市に足を運びたいとのメッセージを多くいただきました。

ふるさと納税をきっかけに寄附者と西予市を繋げ、足を運んでもらえるよう努めていきます。



卯之町の町並み
(重要伝統的建造物群保存地区)



古民家
(旧喫茶 春名)

注力した点や工夫した点

地域コミュニティの場としてだけでなく、地元食材による料理を提供する地産地消の取組や、子育て世代の交流イベントの開催など、オープン後の運営方針をわかりやすく伝え、多くの共感を得ました。

Check

取組の効果

築100年以上の古民家の壁等の修繕及びCafé & Barの運営に必要な施設整備、備品類の購入が可能となりました。今後はCafé & Barを中心に、周辺の観光施設を訪れる人の増加が見込まれます。

また、Café & Barとしてだけでなく、ママ友サロンや市の情報発信の拠点としての機能を持たせることで、交流人口も増加し、昔のような賑わいを取り戻せると、住民

も期待しています。さらには、本プロジェクトがきっかけとなり、近年開催されてこなかった地域イベントが復活し、まちの活性化の取組が広がりを見せています。



プロジェクト取材風景 (PR活動)
右側が地域おこし協力隊員



プロジェクトに取り組む
地域おこし協力隊員、住民、市の職員

寄附者の声



・情緒ある建物が取り壊されず、今後も活用されることに感銘を受けました。お店へもぜひ行きたいと思いますので、頑張ってください！

住民の声



・地域コミュニティの場としての役割、また、西予市を訪れる人や交流人口の増加、新たな人と人とのつながりに期待しています。

▶▶福島県昭和村

築80年の木造廃校舎を
人が集う拠点へ

昭和12年に建築された旧喰丸小学校は、自然に囲まれた木造校舎です。昭和55年に廃校後、幾度と解体の危機に直面しましたが、昔からの精神性を守り伝える「学びの場」として、また、村の方々が集まって楽しい一時を過ごす「交流の場」として、さらには、自然に囲まれた木造校舎に安らぎと癒しを感じる「観光スポット」としての校舎の保存・活用が決定されました。

しかし、校舎の改修費や改修後の管理運営費が多額となることから、これらの費用の一部を

クラウドファンディング型のふるさと納税で募りました。

募集に当たっては、ふるさと納税が集まるようホームページやSNSによる定期的な情報発信を行うとともに、寄附者には進捗状況を報告しました。



改修工事中の校舎



SNSによる進捗状況報告

注力した点や
工夫した点

木造校舎への愛着の強い高齢者の方々が、意思決定から実際の寄附までの流れを円滑にできるよう、Fax 申込用紙や郵便局の専用払込用紙を用意しました。

Check

取組の効果

ふるさと納税により、当初見込んでいた改修工事費等の財源を確保し、施設のオープンを円滑に進めることができました。

また、地元報道機関等で取り上げられ、資金の調達のみならず、村や小学校の効果的なPRとなりました。

ふるさと納税をきっかけとした寄附者とのつながりを、今後の運

営資金の調達や観光誘客等へも生かすことができると期待しています。



改修前の校舎でのイベントの様子



オンライン対応も踏まえた募集チラシ

寄附者の声



・村の皆様が校舎を残そうという選択をされたことに感動しました。

住民の声



・多くのふるさと納税が集まったことで、喰丸小を地域の宝として再認識することができました。



▶愛知県犬山市

木曽川うかいの伝統を未来につなげる

「木曽川うかい」は愛知県と岐阜県の県境を流れる名勝木曽川で1300年以上前から行われている伝統的な古代漁法です。しかし、近年、シーズン中の観覧者数は、最盛期の昭和54年に比べ半数程度に落ち込んでいる状況です。また、観覧船や鵜舎の老朽化、担い手不足といった課題を抱えています。

そのため、ふるさと納税を活用し、これらの課題解決に向けて、安定的な鵜飼の実施に必要な運営費用等を募り、伝統漁法の伝承保存の強化と観光振興のためのPR

を行いました。

募集にあたっては、市営鵜飼であること、全国唯一の地方公務員鵜匠の仕事内容などの特徴を説明するとともに、事業の進捗報告として、国際交流鵜飼の実施、若き船頭の育成等の取組についてウェブサイト上で紹介しています。



最大の特徴は、鵜匠の手網さばきをすぐ目の前で観ることができる臨場感



観覧者拡大のため鵜匠や鵜の動きがよく見える昼鵜飼も実施

注力した点や工夫した点

鵜飼の説明やその担い手である鵜匠や船頭の確保・育成など、市が実施する「木曽川うかい」の保存事業を詳しく紹介することで、多くの寄附者の共感を集めることができました。

Check

取組の効果

ふるさと納税は、木曽川うかい事業費特別会計に全額繰り入れ、懸案事項である鵜舟や鵜舎の修繕などの費用に充てられるとともに、操船技術の習得に向けた指導体制が整備されました。

ふるさと納税の募集期間中にこの取組が新聞に取り上げられたこともあり、当市近郊からの日帰り観光スポットとして手軽な昼鵜飼の人气が広がっています。

取組実施以降、観覧者数は着実に増加しており、市民の誇りである「木曽川うかい」が交流人口の増加に寄与しています。



市観光協会で女性鵜匠も採用され、担い手として活躍中



深刻な担い手不足である船頭の育成にも着手

寄附者の声



・伝統ある鵜飼存続の取組を初めて知りました。少しでも多くの方に関係者の苦勞を知っていただき寄附が集まることを祈っています。

住民の声



・全国から関心を寄せられ非常にありがたく励みとなりました。鵜飼という伝統漁法を保存・活性化できるよう一層頑張ります。(鵜匠)



▶ 滋賀県日野町

歴史ある駅の再生と にぎわいの創出

大正5年に建築された近江鉄道日野駅は、現存する数少ない木造駅舎です。駅舎の老朽化により、解体が検討されましたが、多くの人に愛されてきた駅舎を100年先まで残し、日野町の玄関口としてにぎわいを創出するため、平成28年に近江鉄道日野駅再生プロジェクトが始動しました。

プロジェクトの財源は、クラウドファンディング型のふるさと納税等を活用し、当町に縁のある方や全国の鉄道ファンなどから支援いただきました。駅舎の再生工事は無事完了し、平成

29年秋に竣工式を行いました。

寄附者に対しては、「再生」というプロジェクトの主旨に沿って、本来の用途に使われなくなった近江鉄道初期のレールを文鎮に再生し、記念品として贈呈しました。



日野駅は老朽化が進み、部材の腐朽や破損がひどい状態



柱や構造をできる限り活かし、歴史と思い出を残した駅舎に再生

注力した点や工夫した点

寄附者に対しては、頂いたご支援により、達成できた事業成果を報告する意味も込めて、駅舎再生記念イベントに招待し、再生した駅舎を見てもらいました。

Check

取組の効果

駅舎再生を祝したイベントでは、寄附者を含めた約2,000人が集まりました。寄附者に対して、イベント案内と特別列車の招待状を送付し、事業の成果報告を行いました。

また、駅舎内には、新たな交流の場として観光案内所とカフェスペースを併設し、住民自らが店主として日替わりカフェの運営をするなど、新たな取組を導入することで、駅の新たな魅力が発掘できました。こうし

た一連の取組が報道にも取り上げられ、日野町の良さを広くPRすることができたことで、駅の利用者の増加と、賑わいを創出することができました。



駅舎再生を祝した記念イベントを開催し、1日限りの特別列車に寄附者を招待



駅舎に観光案内所とカフェスペースを併設し、駅に賑わいを創出

寄附者の声



・以前訪れた昔ながらの駅構内や駅前の風景が失われることなく嬉しく思います。あえて手間のかかる再生工事をされた決断に敬意を表します。

住民の声



・素晴らしい駅舎もさることながら、四季を縁取る額縁のようなホーム上屋も将来にわたって受け継いでいただきたいと思います。



▶和歌山県田辺市

聖地巡礼を導く 悠久の自然を守りたい

田辺市は、「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコの世界文化遺産に登録された「熊野古道」を有するまちです。

市では、同じく巡礼の道として世界遺産登録されている「サンティアゴへの巡礼道」のある、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ市との連携事業、公衆トイレの整備、外国人旅行者のための多言語案内看板の設置等の事業にふるさと納税を活用しています。

さらに、平成29年に基金を設置し、熊野古道周辺の手入れが行き届いていない森林の間

伐や枝打ち等の古道の環境整備などを進めています。

寄附者の方々にはふるさと納税の活用実績を田辺市観光パンフレット等とともに毎年送付し、ふるさと納税を通じて田辺市を継続して応援いただけるような関係が築けるように心掛けています。



熊野古道（熊野本宮大社旧社地「大斎原（おおゆのはら）」の鳥居）



熊野古道中辺路ルート（発心門王子付近）

注力した点や工夫した点

ふるさと納税の申込を希望される方からの電話や郵便での問い合わせの際に、熊野古道に関する案内をするなど、寄附者の方との接点を大切にして取組のPRを行いました。

Check

取組の効果

サンティアゴ・デ・コンポステーラ市と共同で始めた事業では、「サンティアゴ巡礼道」と「熊野古道」の両方の道を踏破された方が3年弱の間に約1,000人に上っています。市内の外国人宿泊客も大幅に増えるなど熊野古道の魅力が着実に世界に認知され始めています。

また、古道の維持補修のための市民参加型イベント「熊野古道道普請ウォーク」では、熊野古道の歴史を学んでいる地元小学生「語り部ジュ

ニア」から話を聞きながら熊野古道を歩くことで、市民が地元の魅力を再確認しました。

ふるさと納税が、熊野古道の魅力発信と、市民一体となった保全活動に役立っています。



市民による熊野古道での道普請の様子



熊野古道語り部ジュニア（地元の小学生が熊野古道の歴史について説明）

寄附者の声



・熊野古道を歩くのが好きで第二のふるさとのように感じております。これからも応援していきたいと思っております。

住民の声



・今後も市民一体となって、「おもてなしの心」でお迎えしてまいりたいと思っております。



▶▶ 鳥取県日野町

ふるさとに愛着を持つ人たちの つながりを活かす

日野町では、厳しい財政状況の中、町が元気になるような事業として、町ゆかりのテーマで上演している「町民ミュージカル」の開催費用や子どものための図書購入費用などにふるさと納税を活用しています。

また、ふるさと納税していただいた方や日野町出身の町外在住者などに対して、町広報紙や行事の案内の送付、パブリックコメント参加などのサービスを提供する取組（ふるさと住民票）を行っています。この取組は、町外在住のふるさとに愛着を持つ人たちとのつながりを深めて、まちづくりに参加して

もらいたいという思いから誕生しました。

寄附者には、お礼状と「ふるさと住民票」の申込書を同封し、登録を促しています。



町民ミュージカル



ふるさと住民票のチラシ。裏面が申込書になっており、同窓会などで配布

注力した点や工夫した点

寄附者とのつながりを継続的なものとするため、離れていても日野町の動きが分かるように、「ふるさと定期便」として毎月広報紙や新聞記事のスクラップを送付しています。

Check

取組の効果

直近のデータでは、「ふるさと住民票」は190人の登録があります。この仕組みの効果は、ふるさと（日野町）に対して愛着を持ち、心を寄せてくれる人を「可視化」できること、「外から見た日野町」について登録者から意見を聞くことができます。

最近の取組では、町関係者との交流会を開催し、登録者からまちづくりなどについて貴重な意見などを伺ったほ

か、パブリックコメントや新規施設の名称募集などにも応募いただきました。

今後、ふるさと納税をきっかけに、将来的な移住定住に結びつくことを期待しています。



登録者に贈る「ふるさと住民カード」。鳥取県と日野町の鳥・オシドリをデザイン



登録者の皆さんと町関係者で意見交換と懇親会を実施

寄附者の声



・ふるさと住民票の趣旨に賛同します。頑張ってください。（ふるさと納税とふるさと住民票登録を行った方）

住民の声



・毎月の「ふるさと定期便は、日野町から離れていても日野町の動きがわかる」と登録者に好評です。（ふるさと定期便担当者）



▶▶ 岡山県真庭市

地域おこし協力隊による インターナショナルシェアハウスの開業

韓国から真庭市へやってきた地域おこし協力隊が中心となって、空き家を活用して、地域資源の発掘や世界への発信の場となるインターナショナル・シェアハウスを開設することとなりました。開設費用や日本の田舎暮らしを体験したい外国人に居住スペースを提供するための資金について、クラウドファンディング型のふるさと納税によって集めました。市内外から集まったボランティアの協力もありシェアハウスは完成し、寄附者を

オープニングセレモニーへ招待しました。また、集めたのは資金だけではありません。住民や市外のボランティアを集め、敷地内の草刈、掃除、壁の塗装など、多くの人の手作りで完成させました。



シェアハウス開設に協力してくれた仲間たち

注力した点や工夫した点

日頃より、市のイベント参加やアンケートに協力いただいている「真庭市観光サポーターズ倶楽部」の加入者（市外在住の出身者）へ取組のパンフレットや手紙を送付しました。

Check 取組の効果

シェアハウスは、豊富な専門知識や職業経験を持っている世界各国からの人材と地域コミュニティーをつなげる空間となりました。

外国人入居者は、サイクリングコースのガイドや、学童保育での地域の子育て参加などを通じて、地域住民との交流を積極的に行っています。また、市民の中には、取組をきっかけに、地域に対する誇りを持ち、地域を変えていこうと

いう気概が生まれています。

インバウンドという言葉に縁がなかった真庭市に外国人が訪れるようになったことは大きな財産です。



毎月楽しい交流会を実施



外国人入居者が地域の会議でサイクリングコースを提案

寄附者の声



・シェアハウスのオープニングイベントに招待されました。ふるさとに生まれた一つの明るい光の今後が楽しみです。

住民の声



・地域住民とシェアハウス住民との毎月の交流会を楽しみにしています。



▶高知県室戸市

学校存続にむけた 地域一体の移住促進の取組

室戸市の中山間地域に位置する中川内小中学校の校区では、近年人口減少が進み、学校の閉鎖が危ぶまれています。子ども達が地域の行事に積極的に参加するなど、子ども達にとっても、地域にとっても大切な学校を存続させるためにも、子育て世帯の移住を進める必要があります。

まずは、自然が豊かで、地域が一体となって子育てできる環境を求めて移住を検討している方々に、地域での生活を体験し、地域の良さを知ってもらいたい、と考え、使用していない教職員住宅を移住体験住宅に改修す

るための費用をふるさと納税で募りました。

事業内容については、地域おこし協力隊のSNSを通じてPRしたほか、寄附者に対しては、児童手作りの竹細工やお礼の手紙を届け、地域との関係が継続できるよう努めています。



中川内小学校前での児童・生徒



移住体験住宅改修の様子

注力した点や工夫した点

学校や地域の良さを知ってもらうため、校区内を流れる清流羽根川とそこで遊ぶ笑顔の子ども達や、美しい里山の風景を映した動画を作成し、ウェブサイトで公開しています。

Check

取組の効果

ふるさと納税で得られた資金により、教職員住宅の改修を行うことができ、竹細工作りでは、親子や教職員と共同作業で作り、学校全体で取組を盛り上げることで、児童の「郷土愛」を

育むことにもつながりました。また、児童による手書きのお礼の手紙も、寄附者の方々から更にお礼の返事が送られるほどの反響でした。

これらの取組に関し、地元新聞やテレビでも取



寄附者に届ける竹細工作り



山村留学・移住体験ツアーの様子

り上げられ、中川内地区の知名度向上に繋がりました。これまでに取り組んできた山村留学と移住体験ツアーを組み合わせた「短期親子山村留学」と連携し、積極的に移住者の受入を進めていきます。

寄附者の声



・お腹の子にも体験させたいので、このような素晴らしい自然環境は残してほしいと思いました。

住民の声



・地域がにぎやかになりました。
・取組を通して中川内地区の知名度も上がり、外とのつながりも増えたので、地域活性化のために頑張る活力になりました。



▶▶高知県越知町

古き良き日本の田舎を感じる ゲストハウスを建てたい

越知町は、清流「仁淀川」や「横倉山」などの素晴らしい自然環境を含め観光資源は豊富ですが、宿が少なく遠方からの来訪者も越知町を満喫できずに、日帰りとなる方も少なくありません。そこで地域おこし協力隊の元隊員が中心となり、古き良き日本の田舎をコンセプトとしたゲストハウスを開くとこととしました。

越知町ではゲストハウス立ち上げを応援するため、クラウドファンディング型のふるさと納税を活用し、ゲストハウスの

露天五右衛門風呂や囲炉裏、蚊帳などの設備費用を募りました。

募集に当たっては、ゲストハウス完成後に実際に宿泊するときのイメージが湧くように、施設の概要や写真を多く掲載しました。



ゲストハウス縁の全景



ゲストハウス縁からみた風景
(標高400mの山の上)

注力した点や工夫した点

田舎暮らしに関心を持つ方が閲覧する移住・交流推進機構のウェブサイト「ニッポン移住・交流ナビ」や民間ふるさと納税ポータルサイトなど様々なメディアを活用してPRしました。

Check

取組の効果

ゲストハウスオープン後、寄附者を含め多くの方が宿泊のために訪れており、町の観光客数増にも越知町のPRにも貢献しています。利用者の中には、再びゲストハウスを訪れるリピーターも多く、口コミでの宿泊客も増えています。また、ゲストハウスのある谷の内地区は高齢者率が高く、子どもが非常に少ない地域ですが、宿泊客が来ることでにぎわいが

生まれ、地区の活性化にも貢献しています。町の魅力を感じてもらい、将来的には移住希望者が出てくることを期待しています。



ふるさと納税を使って作成した五右衛門風呂



宿泊客や越知町の住民が多く訪れ、谷の内地区にもぎやかに

寄附者の声



・自然を活かしたゲストハウスは素敵です。ぜひ行ってみたいです。ふるさと納税は少々ですが、広く知られるよう周りの人にはお伝えさせていただきます。がんばって下さい。

住民の声



・ゲストハウスができたことで、集落が明るくにぎやかになりました。



▶福岡県大牟田市

世界文化遺産「三池炭鉱」を世界に発信する

大牟田市は、福岡県の最南に位置し、平成9年に閉山した三池炭鉱とその関連産業で発展してきたまちです。閉山後もまちに残った多くの近代化産業遺産として、坑口から港まで石炭を輸送した炭鉱電車がありますが、これまで厳しい財政状況から、常設展示が出来ませんでした。

平成27年に三池炭鉱関連資産が、世界文化遺産に登録されたことを契機に、炭鉱電車を移設・展示することとし、その費用をふるさと納税を活用したクラウドファンディングにより募集する

こととしました。

また、移設・展示が実現した後も寄附者とともに、実際に訪れてもらえるよう、炭鉱電車運転席の見学ができる硬券切符をお送りし、寄附者の氏名入り真鍮製記念銘板を枕木に設置しました。



移設前の炭鉱電車



寄附者の氏名が刻まれる真鍮製記念銘板。
デザイン、製作は職員自らが行った

注力した点や工夫した点

寄附者に対しては、募集サイトで取組の進捗状況や車両移設作業の様を生配信するなど、ふるさと納税した後も興味を持っていただけるよう取り組みました。

Check

取組の効果

多くの方にふるさと納税していただいた結果、目標額に到達し、車両4両を移設するとともに、展示用の上屋を新築することができました。

世界遺産登録から約2年半を経て、来訪者が減少する中、移設先である三川坑跡の来場者数は、ご自分の記念銘板を探しに来られたり、硬券切符を持参して運転席の見学をされる方も含め、1年間の来場者数が移設前後で約1.5倍に増加しました。

炭鉱電車を活かした地元での様々なイベント開催や商品開発等の積極的な取組も来場者数増加の要因です。



移設・展示された炭鉱電車



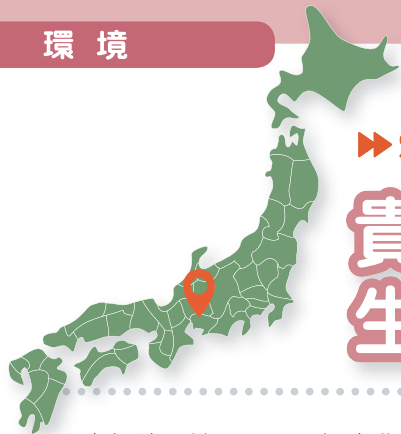
炭鉱電車は子どもたちにも大人気

寄附者の声

・いまは大牟田から遠く離れた地に暮らしていますが、展示が実現したら必ず帰郷します。硬券を携えて。

住民の声

・車輪の滑り止めの砂を活用した受験合格祈願グッズ「スベラナキス」が開発されるなど、保存活用の機運がさらに高まっています。



▶ 愛知県尾張旭市

貴重な湿地と生態系保全への取組

吉賀池湿地は、尾張旭市北部の濁池近くに位置する多様な植物が生育する湿地で、市の指定文化財（天然記念物）に指定されています。数多くの季節の花や、絶滅危惧種のサギソウ等の貴重な湿地植物やハッチョウトンボ等の生物が見られ、一般公開の際には、市内・市外から多くの方が訪れます。

しかし、吉賀池湿地の散策路として整備された木道は設置から20年以上経過し、老朽化による劣化や損傷が著しくなってきたことから、より安全・快適に見学ができるよう、ふるさと納税を活用して、木道の再整備

備をすることとしました。再整備に伴い、道幅が狭かった箇所を設置する待避所には、ふるさと納税によって設置されたことを表示し、訪れた方に対し制度周知を図ります。また、市のウェブサイトにて、使い途別の寄附の状況を報告しています。



秋の一般公開の様子。木道からシラタマホシクサを撮影している参加者



絶滅危惧種のサギソウが数多く咲いている様子

注力した点や工夫した点

寄附者がふるさと納税の使い途を選べることを重視しており、14の使い途を選択可能としています。また、使い途をイメージしやすいように、具体的な事業内容や事業に必要な金額を表示しています。

Check

取組の効果

ふるさと納税の使い途を明確化し、寄附者の共感を集めていることについて報道機関等に大きく取り上げられ、平成28年度は前年度の約11倍のふるさと納税をいただきました。また、吉賀池湿地の一般公開には、取組以前に比べ、県外からの参加者が増えています。

また、ふるさと納税を通じて、全国に情報発信することができ、団体見学の希

望や大学の視察など、吉賀池湿地に対する関心が高まっていることから、今後、交流人口の増加や尾張旭市のPR効果が期待されます。



見学者へ湿地の説明をしている様子



整備される以前の木道

寄附者の声



・共感した事業の実現により、尾張旭市のまちづくりの一助となれたことを嬉しく感じるとともに、身近に感じることができました。

住民の声



・木道が再整備され、参加者が快適に見学できており、安心して湿地の説明ができます。（案内ボランティア）



▶奈良県生駒市

生駒山の森林と人々の営みを守る

生駒市内の山林がナラ枯れとイノシシの獣害に悩まされています。

具体的には、ナラ類、シイ・カシ類の樹木を枯らす病原菌（ナラ菌）と、その病原菌を媒介するカシノナガキクイムシによる樹木の病気である「ナラ枯れ」の被害が年々拡大しており、被害木の倒木による人身や家屋等財産への危険も高まっています。また、近年、イノシシによる農作物被害が増加しており、農家の経営意欲の減退により耕作放棄地の拡大に拍車をかけることも問題となっています。

生駒市では、これらの対

策に必要な財源の確保のため具体的な使い途を提示して、ふるさと納税を募集することとしました。

寄附者に対しては、寄附実績や使い途について報告するとともに、まちに足を運んでいただけるように市の観光ガイドブックを送付しています。



生駒山の全景。生駒市民にとって、生駒山は特別な存在



平成24年から広まったナラ枯れの被害市内のあちこちで見られる枯損木

注力した点や工夫した点

市外在住の生駒市出身者に、重点的に働きかけ、ふるさと生駒の自然や文化、子どもたちを守り、育てる取組に応援していただけるよう、返礼品でなく使い途に賛同していただくことを目指しています。

Check

取組の効果

ふるさと納税で集められた資金を活用し、必要な枯損木の伐倒等を行うことで「ナラ枯れ」の被害の拡大を防ぐとともに、市民の安全を確保しています。また、イノシシ対策として、捕獲檻の設置等により、年間数百頭のイノシシを捕獲することができ、農作物の被害軽減につながっています。

ふるさとを離れた市の出

身者からは、ふるさとのシンボルである生駒山を守る取組として、支援が広がっています。



ナラ枯れの木を伐採後の株も、ビニール被覆をして、カシノナガキクイムシの穿孔を防ぐ



捕獲檻に入ったイノシシ。捕獲数が増えても続く農地への被害

寄附者の声



・生駒出身ですが、帰省するたびにイノシシで荒らされる田畑が多くなっています。昔ながらの風景が続くような方策の為に活用してください。

住民の声



・生駒のナラ枯れの事を皆に知ってもらえる良いきっかけになったのではないのでしょうか。

▶▶ 沖縄県読谷村

美しいサンゴ礁の海を守りたい



読谷村の海岸は、総延長約14kmにおよぶ自然海岸で、美しいサンゴ礁が生息していますが、近年、海水温の上昇やオニヒトデの食害により、減少傾向にあります。

そこで、サンゴの移植活動を行う村内の事業所と連携し、ふるさと納税で集めた資金を活用して、生

ゴの移植の様子を寄附者のネームプレートと共に撮影し、珊瑚の緯度・経度を記した「海からの感謝状」として寄附者にお送りしています。ふるさと納税を活用して、寄附者の想いを形にしながら、読谷村のサンゴ礁を守るための環境美化活動に取り組める仕組みとなっています。

態系に配慮しながらサンゴの移植事業を実施することとしました。地元のダイバーが行うサン



サンゴ移植ポイント



寄附者のネームプレートを設置し、ダイバーが撮影



注力した点や工夫した点

寄附額に応じて移植できるサンゴの株数の種類を増やせる仕組みとすることで、自らの支援がどの程度貢献できるか、寄附者に分かりやすいようにしました。

Check

取組の効果

「サンゴの移植活動」を寄附者が選択したふるさと納税の額は、年々増加し、それに伴い、移植されたサンゴの株数も増えています。全国の寄附者から集まったふるさと納税により海へと移植されたサンゴは成長するにつれ、生き物が住み始め、新しい命を育てていきます。また、2～3年するとサンゴは産卵します。



サンゴ移植作業中

ふるさと納税で募集することにより、サンゴ礁の保護に取り組む村のPRにもつながっています。



サンゴの産卵

寄附者の声



・少しでも第二の故郷沖縄のお役に立てたら嬉しいです。未来も沖縄の美ら海が輝いていますように。

住民の声



・サンゴの移植を通して、きれいな海が守られることは良いことです。今後もふるさと納税を活用して自然を守ってほしいです。

▶▶ 徳島県

命を守る「災害救助犬」
「セラピー犬」を育てる

徳島県では、動物愛護管理センターに収容される犬の中から大規模災害発生時に人命救助等を行う「災害救助犬」や、避難所や病院などを訪問し心のケアを行う「セラピー犬」、動物とのふれあい方や命の大切さを学ぶ「ふれあい活動犬」の育成を県内の訓練所と協力して行っております。犬の育成に必要なトレーニング等の費用についてふるさと納税で募りました。

事業の意義として、「災害時への備え」と「動物愛護の推進」の両面を積極的に発信し、支援が広がっていきました。

認定された災害救助犬等の活動状況については、ウェブサイト等での事業報告により、積極的に発信していきます。また、飼い主をはじめ、各関係機関との連携を推進することにより、活動の場を広げていきます。



訓練風景



倒壊家屋からの被災者の探索訓練の様子

注力した点や工夫した点

動物愛護管理センター収容犬を育成し、譲渡が進むことにより、犬の殺処分削減にも繋がることをアピールしたことで、多くの寄附者の共感を集めることができました。

Check

取組の効果

これまでに、2頭の災害救助犬が育成・認定されており、飼い主とともに防災イベントや災害訓練に参加し有事に備えての経験を積んでいます。また、新たな災害救助犬の候補犬が認定審査に向けて訓練中です。

セラピー犬・ふれあい活動犬についても、県内の老人保健施設や幼稚園、小学校などを訪問し、ふれあい活動を通じて、心の安らぎと命の大切さを学ぶ機会を

提供しています。

本事業については、多くの報道で取り上げられ、事業に対する周知や理解が進み、新たな飼い主の募集の増加にも繋がっています。



老健施設への訪問（ふれあい活動）



小学校への訪問（命の授業）

寄附者の声



・セラピー犬などを育てることは、とても地道で大変なお仕事だと思います。この取組が長く続くように応援しています。頑張ってください。

住民の声



・県内にセラピードッグ・災害救助犬がいてくれることは心強く、ふるさと納税により事業が実施できたことは大変ありがたいと感じています。



▶▶ 福岡県福岡市

安全で安心して暮らせる まちづくりのために

福岡市では、全国に誇れる消防救急体制の構築に向けて、救急車出動から病院搬送までの所要時間の更なる短縮を目指しており、「福岡市消防救急基金」を設置し、消防・救急車等の整備や救急車で使用する点滴、気道を確保する資機材などの購入費用をふるさと納税で募集しています。

また、平成28年の熊本地震や平成29年の九州北部豪雨の際には、寄せられたふるさと納税の運用益も活用し、被災地への消防支援

活動を行いました。

消防救急の取組については、市のウェブサイトなどに掲載し、寄附者には事業実績報告書のほか、市内の観光パンフレットも送付することで、ふるさと納税を契機とした関係づくりに取り組んでいます。



救急搬送イメージ



被災地での支援活動

注力した点や工夫した点

募集にあたっては、写真や具体的な事業内容を分かりやすく紹介しています。また、寄せられたふるさと納税が市の消防救急活動に活用されることが明確になるよう、基金に積み立てて運用しています。

Check

取組の効果

ふるさと納税で集められた資金の運用益も活用し、資機材などを購入することで、より充実した消防救急体制の構築を図っています。購入した資機材は実際に命を失う危険がある患者を救命する場面で活用されています。

また、ふるさと納税は、被災地への消防支援活動を応援したいという寄附者の気持ちの

受け皿ともなっており、全国からいただいた多くの方々の善意や感謝のメッセージは、消防救急行政に携わる職員の士気の更なる向上にもつながっています。



購入した資機材



被災地での捜索活動

寄附者の声



- ・熊本地震の被災地への支援方法に賛同します。災害支援にお役立てください。
- ・救急業務に役立てて、一人でも多くの救命につながってほしいと思います。

住民の声



- ・救急車にお世話になりました。適切に処置対応していただき、ありがとうございました。

▶▶ 熊本県熊本市

熊本地震からの
復旧・復興に向けて

平成28年の熊本地震においては、多くの方々が被災され、熊本城や市内の文化財、動植物園等の施設も甚大な被害を受けました。

熊本地震からの復旧・復興に関するふるさと納税については、寄附者の想いに応じた制度となるよう使い途を明確化し、6つのメニューから選択可能としたことで、国内外から数多くのふるさと納税をいただいています。

例えば、被災者の暮らしの再建や復興事業の推進に活用する熊本地震復旧・復興寄附金や、熊本城の天

守閣等の修復再建等を行う「復興城主」制度等の具体的な使い途についてふるさと納税を募集しました。

また、「復興城主」制度においては、寄附者に対して「城主証・城主手形」を送付するとともに、デジタル芳名板に寄附者の氏名を登録しています。



地震により崩落した熊本城の石垣



寄附者に送付する「城主証」と「城主手形」

注力した点や工夫した点

復旧工事が進む熊本城の状況や動植物園の部分開園の情報等を、随時ウェブサイトに公開したり、報道機関を通じてPRをする等、積極的な情報発信に努めています。

Check

取組の効果

熊本地震関連で、多くの寄附をいただいた結果、避難所設置、被災者への経済的支援、公共施設の復旧等の経費に幅広く充当し、被災者の暮らしの再建を着実に進めることが出来ました。

「復興城主」制度では、寄附者に熊本城の近くに設置されたデジタル芳名板を見に来てもらうことで、熊本城の復旧過程を直接見て知っていただき、ふるさと納税が熊本地震からの復旧に貢献していることを実感して

いただく良い機会となっています。

各種イベントで「復興城主」制度をPRした効果もあり、熊本城を訪れる観光客が震災前より増加し、まちの活性化につながっています。



工事中の熊本城天守閣



復旧した市民会館シアーズホーム夢ホール

寄附者の声



・熊本の一日も早い復興を祈ります。特に熊本城の復興は県民の皆様のみならず、全国民の願いだと思います。

住民の声



・全国から支援をいただき勇気付けられました。来年以降もこの取組を継続して行って欲しいと思います。

企業版ふるさと納税

6 事例

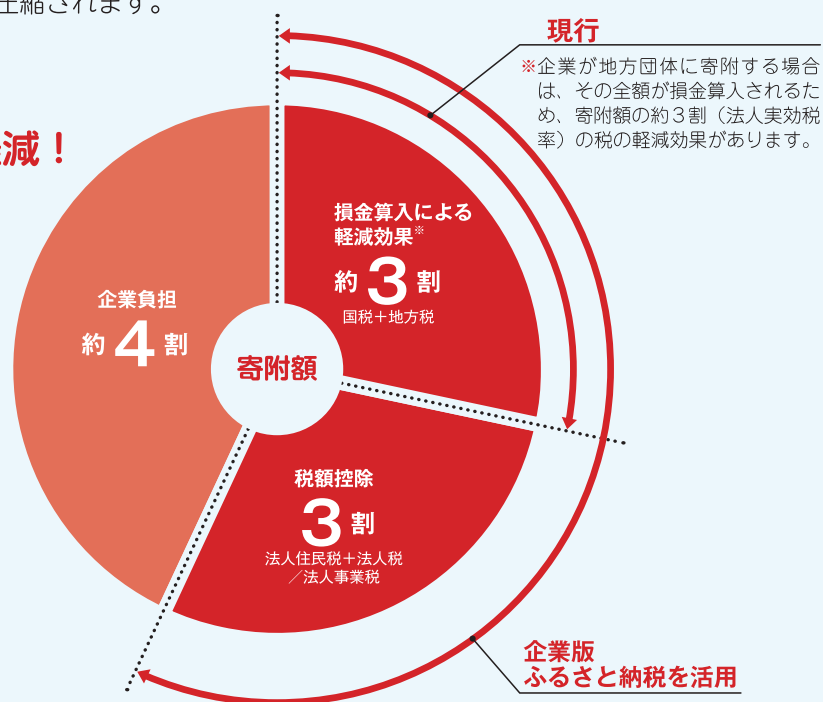
企業版ふるさと納税とは？

制度の概要

企業版ふるさと納税は、国が認定した地方団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄附を行った場合に、寄附額の3割を当該企業の法人関係税から税額控除する制度です。

従来からの損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、寄附額の約6割が軽減され、実質的な企業の負担は約4割まで圧縮されます。

**法人関係税が、
今までの2倍軽減！**



税目ごとの 特別措置の 内容

- ①法人住民税 寄附額の2割を税額控除（法人住民税法人税割額の20%が上限）
- ②法人税 法人住民税の控除額が寄附額の2割に達しない場合、寄附額の2割に相当する額から法人住民税の控除額を差し引いた額を控除（寄附額の1割、法人税額の5%が上限）
- ③法人事業税 寄附額の1割を税額控除（法人事業税額の20%*が上限） ※地方法人特別税廃止後は15%

企業にとってのメリット

- ・法人関係税において、大きな軽減効果を得ることができます。
- ・地域に寄附を行うことで、社会貢献に取り組む企業としてのPR効果が期待できます。
- ・企業版ふるさと納税を通じた連携により、地方団体と企業との間で新たなパートナーシップの構築の可能性があります。
(寄附先である地方団体の地域資源などを生かした、事業展開・新商品開発など。)

企業版ふるさと納税に関する各種データについては、
内閣府企業版ふるさと納税ポータルサイトにおいて掲載しています。
<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/tiikisaisei/kigyousatsunomiya.html>



▶北海道夕張市

コンパクトシティの推進加速化と 地域資源エネルギー調査

【総事業費】 1,226,586 千円

炭鉱の坑口ごとに集落が形成されてきた夕張市では、公共施設も集落ごとに配置されてきた歴史があります。しかし、人口が減少した現在においても、公共施設の集約は進んでおらず、かつ、財政再建中であることから、更新や修繕を実施することも出来ない状況となっています。公共施設の選択と集中を進め、主要幹線のある清水沢地区に必要な機

能を集中させることにより、人口減少社会の到来に対応したコンパクトシティを形成するべく、清水沢地区に児童館、図書館等の多機能を備えた複合型拠点施設を整備します。

また、同地区に豊富に存在すると推定されている地域資源（CBM：コール・ベッド・メタン（石炭層から採取可能な天然ガスであり、市は豊富な資源量が推定されるCBM開発の国内最有力地））を活用するため、足掛かりとなる調査を行います。



複合施設整備及び
CBM開発を進める清水沢地区



CBM試掘現場

●主なKPI●

- 拠点施設利用者数
- ▶ H30～H31：74,210人
- 清水沢地区の新規住居創出数
- ▶ H28～H31：64戸

寄附の経緯

創業地が北海道である(株)ニトリホールディングスの会長が、北海道への恩返しのお気持ちで、夕張市に桜の植樹を実施する等、以前から本市と繋がりがあったところ、市長から直接事業の説明を受け趣旨に賛同くださり、4年間で総額5億円の寄附を決定しています。

Check

取組の工夫

コンパクトシティを実現させるうえで、今回整備する複合施設の果たす役割は非常に大きいことから、利用主体である市民の多様なニーズを的確に捉え、複合施設の機能や規模、建設計画に関する考え方についてまとめるために、広く市民等の意見を聴きながら調査・検討を行いました。

また、複合施設建設地と同地区で実施するCBM開発は、地域に眠る未活用資源を活用した地産地消はもとより、仕事創出という価値を生み



(株)ニトリホールディングスへの
感謝状贈呈



複合施設外観イメージ

出し、さらには生活基盤を整備し、移転や移住を促進する事業として位置づけています。

●代表的な寄附企業●

(株)ニトリホールディングス



▶秋田県

世界遺産白神山地の保全を通じて「高質な田舎」を実現するプロジェクト

【総事業費】 39,661 千円

平成5年に年間約30万人であった白神山地周辺地域の来訪者数は、世界遺産登録後に急激に増え、平成12年には約40万人に達したものの、その後は減少の一途をたどり、平成27年にはピーク時の半分の約20万人となっています。

世界遺産白神山地の自然に触れ合う場を提供することにより、交流人口の増加と地域の活性化を図る

ため、次世代を担う子どもたちを対象とした白神山地の自然体験ツアーを実施するとともに、ブナ林トレッキング等を通じて白神山地がもたらす恵みを体験するエコツーリズムイベントを開催します。また、白神山地の魅力を来訪者に分かりやすく伝え、来訪者の楽しみと安全管理等を担いつつ、遺産地域に精通しパトロール等を通じて保全管理に貢献するガイド

を育成するとともに、登山道・散策ルートへの補修及び新規整備等を行います。



地元ベテランガイドとの沢歩き



白神山地麓海岸でのシーカヤック体験

●主なKPI●

白神山地周辺地域の来訪者数

▶ H27：20万人
→ H31：24万人

寄附の経緯

秋田県藤里町に研究施設を設置し、化粧品の研究開発や原材料の栽培を行っている株式会社アルビオン、白神山地周辺の法面工事等を行う株式会社アイビック、創業者が県出身者であるオリジナル設計株式が、県とご縁をきっかけに、県担当部署からの事業説明や呼びかけを受けて、寄附を決定しています。

Check

取組の工夫

世界遺産白神山地の保全推進を通じて秋田県の創生に繋げるために、どうすれば県民等に白神山地の魅力や価値を理解してもらえるか、また、白神山地における課題について地元ガイド団体等と意見交換を重ね、連携・協力して事業を実施しています。

寄附者に対しては、知事名の感謝状の贈呈や、寄附者と知事が懇談する目録贈呈式の開催により、県から感謝の意を示しています。

また、イベント開催時の啓発チラシに寄附者名



目録贈呈式



(株)アルビオンへ感謝状贈呈

を記載するとともに、事業の実施状況や目録贈呈式の模様を随時県のHPに掲載するなど、積極的な広報活動に努めています。

●代表的な寄附企業●

(株)アルビオン (株)アイビック
オリジナル設計(株)



▶群馬県下仁田町

ねぎとこんにゃく下仁田奨学金事業 ～金融機関と連携した教育制度の充実施策～

【総事業費】 216,932 千円

下仁田町は、県内の近隣市町村と比べても地理的に有利ではなく、特に教科学習等の教育を重視する子育て世代の親は、教育環境に恵まれている近隣市町村に転出してしまう可能性が高いのが現状となっています。

若者の町外流出を抑制するとともに、進学等で町外に流出した人材のUターン就職につなげ、農林業、食品、建設等の地場産業への優秀な人材の確保と子育て世代の流入増加を達成するため、町と提携する金融機関が行う独自の奨学ローンについて、卒業後、利用者（学生）が町内に定住している場合、元金及び金利の支払い相当分の実質全額補助を行います。



奨学金パンフレット（表紙）



奨学金パンフレット（制度紹介）

●主なKPI●

- 奨学金利用者数
▶ H29～H31：244人
- 寄附活用事業による町内定着人数
▶ H29～H31：36人

寄附の経緯

親族が町出身者であり町に支店を設置する巴工業㈱、町の特産品であるこんにゃく製品を製造する株関越物産などが寄附を決定しています。

Check

取組の工夫

寄附集めにおいては、町独自でねぎとこんにゃく下仁田奨学金事業と企業版ふるさと納税にかかるパンフレットを作成・配布し、寄附企業の募集の際にも活用しているほか、町出身の創業者や繋がりのある企業を中心に寄附の呼びかけを行っています。



巴工業㈱と協定締結



株関越物産へ感謝状贈呈

●代表的な寄附企業●

巴工業㈱ 株関越物産



▶▶ 岐阜県各務原市

博物館を核とした 航空宇宙産業都市魅力向上事業

【総事業費】 708,340 千円

各務原市においては航空宇宙産業が集積しており、国家戦略特区「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」にも指定されていますが、次世代の担い手たる技術者の育成・確保が課題となっています。

このため、市の航空史や各務原ゆかりの航空機と

技術を紹介する「かかみがはら航空宇宙科学博物館」のリニューアルを行い、同博物館の魅力向上・機能強化を図ります。これにより、我が国の航空宇宙産業の持つ歴史や魅力、優れた技術を、将来の航空宇宙産業の担い手となるべき子どもたちが早い段階から学び、体験できるようにすることに加え、航空宇宙



日本の航空機産業の礎となった実機を年代ごとに展示



内部までリアルに再現したISS（国際宇宙ステーション）の実寸大模型を新設

産業の集積地として国内外に発信し、地域の更なる発展を目指します。

●主なKPI●

観光施設入込客数

▶H31：495万人

企画展来場者数

▶H28～H31：64,000人

寄附の経緯

航空宇宙関連製造業や各務原市とつながりのある企業等を中心に、本事業の内容や寄附のメリット等、的確な説明とPRを行い、ご賛同いただいた複数の企業から寄附の申出を受けています。

Check
取組の工夫

寄附集めにおいては、岐阜県と共同で企業版ふるさと納税のチラシを作成し、博物館リニューアルのPRとともに県・市がそれぞれ広報活動を実施しました。特に、博物館とのつながりが強い航空宇宙関連企業や製造業を中心に、市長によるトップセールスや企業訪問を実施しました。

また、県・市のウェブサイトでの掲載及びプレスリリースを展開し、博物館と寄附企業のPRにも努めています。



寄附感謝状贈呈式（川崎重工業(株)航空宇宙カンパニー、キョーラク(株)



岐阜県と共同作成したチラシ

●代表的な寄附企業●

川崎重工業(株)航空宇宙カンパニー
キョーラク(株) (有)ファインテック



▶岡山県玉野市

たまの版地方創生 人財育成プロジェクト

【総事業費】 144,913 千円

玉野市は造船業を基幹産業とする企業城下町ですが、市内に工業系高校がなく、工業系就職者の不足が深刻化しています。また、地域の産業についての情報が不足しているため、就職先を求めて市外へ移住する若者も多い状況にありました。

このような状況に鑑み、市立玉野商業高等学校に工業系学科を新設することとしました。また、学校や地元企業と連携・協働しながら、地元企業へのインターンシップ制度の充実、小中学生による職場見学や地元産業の学習を支援するとともに、地元企業と就職希望者とのマッチング支援、英語教育の推進等に取り組み、教育活動の充実を図ります。



工業系学科イメージ



港のイベントにて高校生による外国人おもてなし活動

●主なKPI●

地元工業系企業就職者数
▶ H32～H33 : 60人

寄附の経緯

玉野市内において創業し、現在も市に事業所を構える三井造船㈱が、創立 100 周年を記念して、地域貢献を検討しているとの意向がありました。そこで、地域で活躍する人材育成を産官学の強力な連携により進める事業として、企業版ふるさと納税制度を活用し、工業系学科の新設と、小学生から高校生までを対象とした地域産業等を学びの場とするキャリア教育の充実を目指した事業を展開することとしました。

なお、三井造船㈱からは、6,500 万円の寄附及び授業実習施設の新設整備などを内容とする総額 1 億円相当の支援を受けています。

Check

取組の工夫

寄附を受けて行う事業の概要、企業版ふるさと納税の制度等を記載した市独自のパンフレットを作成し、企業へアプローチするとともに、事業内容については、企業の方が寄附しやすいよう、対外的に説明しやすい人材育成をテーマに地域再生計画を策定しました。

また、市にゆかりのある企業をリストアップし、近隣や市内の事業所（営業所）には、副市長と担当で事前に事業の説明を行った上で、市長が本社を訪問し、社長等幹部に支援を依頼するという二

重のアプローチを展開しました。



市が作成しているパンフレット



三井造船㈱への感謝状贈呈

●代表的な寄附企業●

三井造船㈱ パンパシフィック・銅㈱
三菱マテリアル㈱ 北興化学工業㈱



▶佐賀県鳥栖市

スタジアムリニューアルによる 魅力向上プロジェクト

【総事業費】 686,000 千円

ベストアメニスタジアムは、球技専用スタジアムとして全国的にも高い評価を得ている一方で、建築後20年が経過し、施設の機能に関して様々な課題が顕在化してきています。

特に、近年では鉄骨部に錆等が目立ちつつあるた

め、J1 サガン鳥栖のホームスタジアムであることをより強く実感できるように、一部にチームカラーを取り入れながら支柱や外壁等への塗装工事を行うとともに、スタジアム内にサガン鳥栖の歴史やサッカー文化、ホームゲームの高揚感に触れることので

きるようなミュージアム機能を設けることとし、スタジアムへの新たな魅力の付加を図ります。



市内遺跡出土の銅剣をモチーフにした外観はスタジアムの大きな特徴の1つ



急傾斜の観覧スタンドはピッチとの距離が非常に近く、臨場感抜群

●主なKPI●

スタジアム年間来場者数

▶H28：213,714人

→H31：238,000人

寄附の経緯

社長が佐賀県出身であり、サガン鳥栖のオフィシャルスポンサーである(株)Cygamesが3年間で事業費の全額となる総額6億8,600万円の寄附を行うこととなりました。同社はこれまでも、市役所の窓口業務にあたる職員が着用するコンフィットTシャツの寄贈やラッピングバスの展開など、サガン鳥栖を通じた地域活性化の取組を支援してきた経緯があり、スタジアムの改修によって市民に誇りを持ってもらい、訪れるサポーターにたくさんの魅力を感じてもらいたいとの思いから、本プロジェクトへの寄附の申出に至りました。

Check

取組の工夫

現在、市で進めている鳥栖駅周辺整備事業との連携を図り、駅周辺を景観に配慮した統一的なデザインで設えることで、まちの顔としての魅力を高め、スタジアム来場者数の増加、市への交流人口の拡大、サガン鳥栖応援気運の高揚、サガン鳥栖を通じたシビックプライドの醸成を目指します。



(株)Cygamesからの寄附申出にかかる記者会見



サガン鳥栖ホームゲームには世代を超えてたくさんのサポーターが集まる

●代表的な寄附企業●

(株)Cygames

ふるさと納税

総務省 自治税務局市町村税課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2

電話：03-5253-5111

企業版ふるさと納税

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

内閣府 地方創生推進事務局

〒100-8968 東京都千代田区永田町1-6-1

電話：03-5253-2111